

### 3. 優先観光開発地域の開発計画

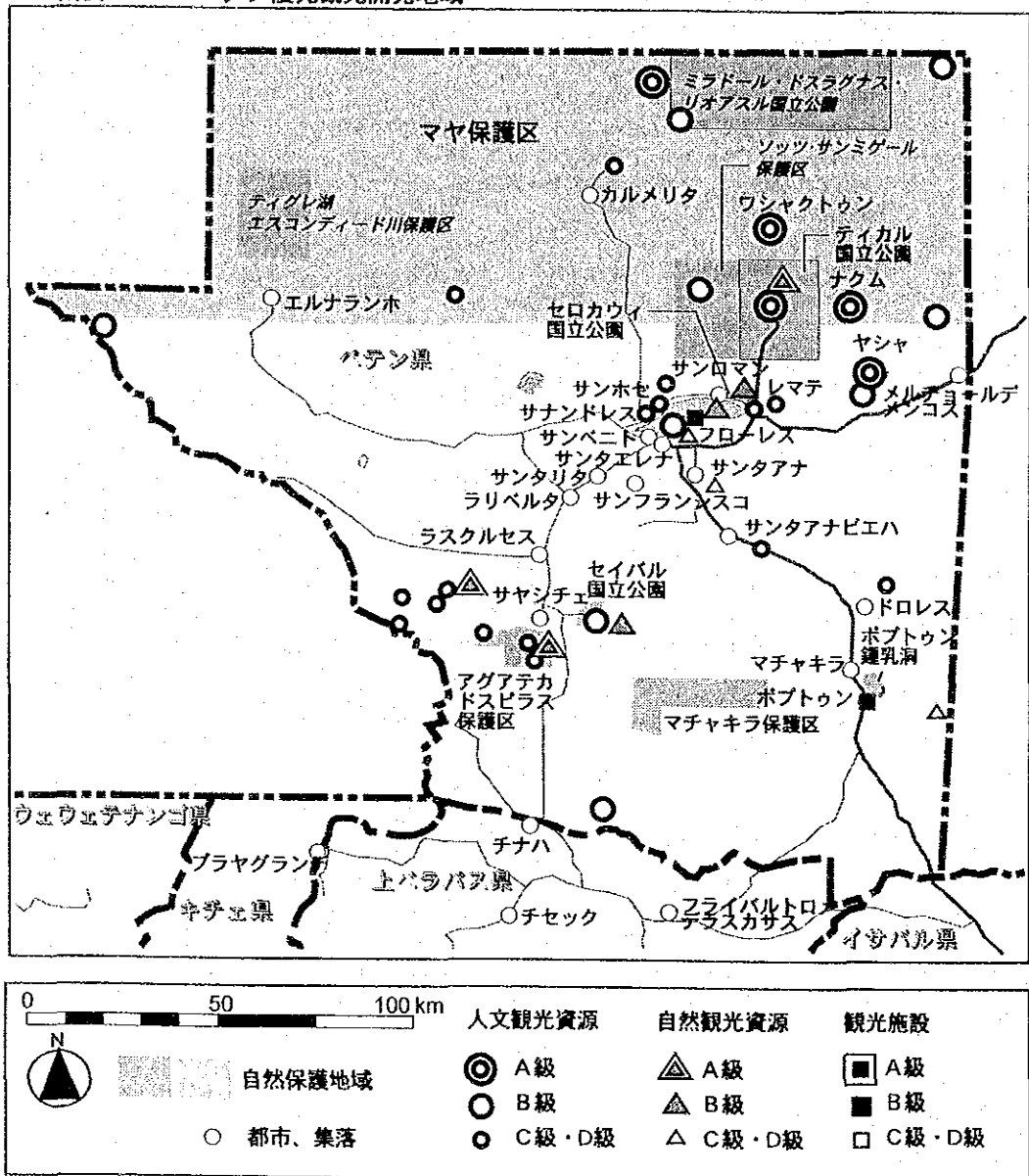
#### 3.1. ペテン優先観光開発地域

##### 3.1.1. 地域の概要

図表 3.1に示すように、ペテン優先観光開発地域はグアテマラ北部のペテン県全域を占め、これはINGUATの「マヤの冒険」観光圏に当たる。

この地域では紀元前 2000 年頃から農業に基礎を置くマヤ文化の発達が見られ、特に紀元後 3 世紀から 8 世紀末まで栄えた古典マヤ文化の中心地であったため、世界遺産となっているティカルを始めとする多数の考古遺跡が分布する。

図表 3.1 ペテン優先観光開発地域



出典： JCA 調査団

古典期マヤの崩壊後、ペテン地域は、1,000年以上ものあいだ歴史の表舞台から忘れ去られ、1960年代にグアテマラ政府が開拓に乗り出すまで、熱帯雨林に被われていた。しかしその後石油探掘のための道路開削とグアテマラ高地からの人口流入によって、森林伐採が急速に進んだ。

この地域の先住民人口比率は36%で、グアテマラの他地域と比べると低い。貧困線以下の生活を強いられている人々の比率は60%に達する。

ペテン地域では2000年に約69万人泊、25万人の来訪者があった。そのうち64%が外客であると推計され、他地域と比べると外客の比率が高い。JICA調査団が実施した来訪者調査によると、図表3.2で見るように、他地域に比べて観光客の比率が高く、グアテマラを代表する観光地のひとつであることがわかる。

図表 3.2 ペテン優先観光開発地域への来訪者の市場特性

	ペテン優先観光開発地域		グアテマラ国全体	
	来訪者数	(%)	来訪者数	(%)
来訪者タイプ	667	100.0%	3,046	100.0%
個人観光	424	63.6%	1,320	43.3%
団体観光	81	12.1%	166	5.4%
業務	73	10.9%	943	31.0%
友人知人訪問	79	11.8%	562	18.5%
その他	10	1.5%	55	1.8%
発地	667	100.0%	3,037	100.0%
中米・メキシコ	151	22.7%	1,585	52.2%
北米	231	34.7%	785	25.8%
南米	49	7.4%	142	4.7%
ヨーロッパ	192	28.8%	402	13.2%
その他	43	6.5%	123	4.1%

出典： JICA 調査団、来訪者調査（2001年3月、7月）

図表 3.3はペテン地域観光資源の評価結果を示したもののだが、ティカル、フジャクトゥン、ヤシヤ、ナクム、ミラドール等の考古遺跡が重要な観光資源である。しかしこれ以外に、ベテシュバトゥン、ペテンイツァーといった湖沼やパシオン川、サンペドロ川等の河川、遺跡周辺等に残る熱帯雨林、コロニアル都市フローレス等、遺跡以外の観光資源にも注目に値するものがある。

図表 3.3 ペテン優先観光開発地域の観光資源

名称	県	市/村	分類				評価
			人文	自然	施設	その他	
ティカル遺跡(含博物館)	ペテン	-	X				A
ワシヤクトウン遺跡	ペテン	-	X				A
ヤシヤ遺跡	ペテン	-	X				A
トボシュテ遺跡	ペテン	-	X				B
ナクム遺跡	ペテン	-	X				A
エルナランホ遺跡	ペテン	-	X				B
アグアテカ遺跡	ペテン	-	X				C
セイバル遺跡	ペテン	-	X				B
ドスピラス遺跡	ペテン	-	X				C
ミラドール遺跡	ペテン	-	X				A
ナクベ遺跡	ペテン	-	X				B
ティンタル遺跡	ペテン	-	X				D
エルペルー遺跡	ペテン	-	X				C
ソツ遺跡	ペテン	-	X				B
ピエドラスネグラス遺跡	ペテン	-	X				B
リオアスール遺跡	ペテン	-	X				B
カンクエン遺跡	ペテン	-	X				B
エルカリベ遺跡	ペテン	-	X				D
エルチャル遺跡	ペテン	-	X				D
イツァン遺跡	ペテン	-	X				D
イシュクン遺跡	ペテン	-	X				D
ラアメリカ遺跡	ペテン	-	X				D
タマリンディート遺跡	ペテン	-	X				D
アルタールデサクリフィシオス遺跡	ペテン	-	X				D
モトゥルデサンホセ遺跡	ペテン	-	X				C
イシル遺跡	ペテン	エルクルーセ	X				D
フローレス町並	ペテン	フローレス	X				B
サナンドレス町並	ペテン	サナンドレス	X				C
サンホセ町並	ペテン	サンホセ	X				C
木彫り	ペテン	レマーテ	X				B
ペテシュバトウン湖	ペテン	-		X			A
バシオン川	ペテン	-		X			A
ペテンイツァー湖	ペテン	-		X			A
アクトゥンカン鍾乳洞	ペテン	-		X			D
ナフトゥニ子鍾乳洞	ペテン	-		X			D
ティカル国立公園	ペテン	-		X			A
セロカウイ保護区	ペテン	-		X			C
セイバル国立公園	ペテン	-		X			B
ペテンシート動物園	ペテン	-			X		C
イショベル農園	ペテン	ポプトウン			X		C
野生動物の肉料理 (イグアナ、アルマジロ等)	ペテン	-				X	C

出典： JICA 調査団

## 3.1.2. 持続的成長のための配慮

ペテン優先観光開発地域の開発計画策定にあたって、持続的成長を実現するために必要とされる配慮のうち、特記されるのは以下の項目である。

図表 3.4 持続的成長のための主要配慮項目

自然環境	社会環境	人文観光資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 道路開発にともなう森林破壊の危険性に配慮した計画作り</li> <li>• キャノピーウォーク施設建設の際の景観への配慮</li> <li>• 観光開発によるペテンイツァー水質汚染の防止策</li> <li>• ジャガー等の絶滅危惧種の保護</li> <li>• 施設やインフラデザインの周辺自然環境との調和</li> <li>• アクセス道路や探勝路建設に際しての自然環境への十分な配慮</li> <li>• 河岸の景観と自然の保全</li> <li>• 観光地でのゴミ処理の強化</li> <li>• 自然保護地域における「来訪者管理システム」の導入</li> <li>• 観光等、自然保護のための経済的誘因の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 観光産業導入の可否の決定に際しての、集落住民の意志の尊重</li> <li>• 観光商品として提示されるものを選択する際の、地域住民の意志の尊重</li> <li>• 観光客誘客のための先住民文化の安易な誇張や変更の禁止</li> <li>• シャテ採集等、持続可能型経済活動の奨励と観光利用</li> <li>• 「協働管理」による周辺地域住民の観光開発への参加</li> <li>• 集落や地域住民による企業の設立支援</li> <li>• 周辺地域住民への段階的な観光地管理の権限の委譲</li> <li>• 自然地域、遺跡の管理業務への地域住民の活用</li> <li>• 遺跡およびペテンイツァー湖周辺集落の住民に対する観光産業と観光客に関する教育と広報</li> <li>• 地域の自然、文化遺産に対する誇りを高めるための努力</li> <li>• 集落観光導入の際、集落レベルの組織を作り、複数の施設・サービス間の整合性を確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理できる規模に限定した遺跡発掘と観光利用</li> <li>• 遺跡周辺の自然保護への配慮</li> <li>• 探勝路の整備と情報提供</li> <li>• 一部の遺跡における「来訪者管理システム」の導入による混雑の緩和</li> <li>• フローレスやサンホセ等の町並みを守るための、新規建造物に対する「建築デザイン基準」の導入</li> <li>• 伝統的建造物の「賢明利用」の促進</li> <li>• 伝統的建造物に対する、安全性や快適性を向上させるための最低限の改築の許容</li> <li>• 伝統的建造物内装に関するオリジナル意匠の尊重</li> <li>• 文化遺産に対する意識向上キャンペーンの実施</li> <li>• 地域住民の意識向上のための歴史建造物への案内板の設置</li> <li>• 建設前の遺跡調査の実施</li> <li>• 酸性雨や大気汚染からの保護</li> </ul>

出典： JCA 調査団

### 3.1.3. 観光開発戦略

#### (1) ペテン地域観光の SWOT 分析

ペテン優先観光開発地域の開発戦略は、図表 3.19に示す現況の SWOT 分析の結果に基づいて策定されている。

図表 3.5 ペテン地域観光の SWOT 分析

	正	負
現況	<b>強み (strength)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に見ても市場競争力のきわめて強い多数のマヤ遺跡に恵まれている</li> <li>熱帯雨林、河川、湿地、湖等の自然や、コクニアル都市、先住民文化等多様な観光資源に恵まれている。</li> <li>メキシコとベリーズを結ぶ東西の観光回廊と、グアテマラ国内を南北に貫く観光回廊の結節点に位置し、ムンドマヤ周遊路の要に位置する。</li> </ul>	<b>弱み (weakness)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペラバス地域からの急速な人口流入によって、急速に森林伐採が進んでいる。</li> <li>多数の観光資源の分布を考慮すると、来訪者の平均滞在日数が短すぎる。</li> <li>近隣観光地との陸路による連携が弱いため空路に依存し、交通費が高い。</li> <li>潜在力のある自然観光やリゾート観光向けの宿泊施設が乏しく、観光の多様化を妨げている。</li> <li>世界遺産であるティカルに過度に依存している。</li> <li>ティカル以外にも観光的魅力度の高い遺跡が多数存在するが、アクセス道路の不備や不十分な管理体制によって、観光利用が進んでいない。</li> <li>高地から移住者が多いため遺跡周辺の住民と遺跡の精神的な結びつきが弱く、遺跡の保全が容易ではない。</li> </ul>
将来	<b>機会 (opportunity)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡と自然の組合せは強力な観光商品となる可能性が高い。</li> <li>世界的に見て成長率ももっとも高いといわれる軽冒険旅行やエコツーリズムに適した観光資源が多数存在する。</li> <li>ペテンイッツァー湖岸はリゾート開発に適している。</li> <li>コバンと結ぶ道路の改良によって、将来グアテマラ国内や近隣国からの来訪者が増加する可能性が高い。</li> </ul>	<b>脅威 (threat)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡の保全が観光によって経済的に動機づけられないと、盗掘等による遺跡の破壊が進み、グアテマラ観光の市場競争力が損なわれる怖れがある。</li> <li>同様の仕組みが自然観光地についても成立しないと、自然破壊が進み、グアテマラ観光多様化のチャンスが失われてしまう怖れがある。</li> <li>コバンと結ぶ道路の改良が進むと、国内や近隣国からの観光客が急増し、ティカル等の有名観光地の混雑や観光資源の劣化が進む恐れがある。</li> </ul>

出典： JCA 調査団

## (2) 開発基本方針

SWOT 分析で見たように、ペテン地域はその多様な観光的可能性にもかかわらず、現在はティカル遺跡に過度に依存している。そのため観光の多様化を進めることに主眼を置き、以下の5項目を開発基本方針とする。

- 遺跡観光の多様化
- ペテンイツァー湖のリゾート化推進
- 自然観光の開発と遺跡観光との融合
- 観光を通じた地域文化の活性化
- 観光ネットワークの強化

### a. 遺跡観光の多様化

来訪者調査が示すように、ペテンでのマヤ遺跡観光はグアテマラ観光のハイライトである。しかしティカルに過度に依存したまま地域への来訪者数が増加すると、遺跡の劣化や混雑による来訪者満足度の低下等、さまざまな問題を生む恐れがある。そのため遺跡観光の多様化を図ることが必要である。

### b. ペテンイツァー湖のリゾート化推進

湖畔の美しい景観と周辺の多様な観光資源、さらに国際空港を併せ持つペテンイツァー湖は、リゾート観光地になりうる条件を備えている。湖岸のリゾート化を進めることは、ペテン地域の観光多様化を進め、リピート客を増やし、滞在日数の増加にも効果がある。

### c. 自然観光の開発と遺跡観光との融合

ペテン地域には魅力度の高い自然観光資源が数多く残されている。観光産業を経済的誘因として急速に進行する森林伐採等の環境破壊の抑止を図るためにも、来訪者の分散によって既存遺跡観光地への過度の入込みを防ぐためにも、自然観光の強化が必要である。特に、先スペイン期には幹線交通路として利用されていた河川を観光交通の手段として利用することは、自然保護の観点からも望ましい。

### d. 観光を通じた地域文化の活性化

ペテン地域における遺跡以外の人文観光資源は、他の優先開発地域と比べるとやや見劣りするものの、メキシコの子チェンイツァーから移住してきたと言われるイツァーマヤ族の文化、フジャクトゥンで見られるチクレ（チューインガムの原料）やシャテ（観葉植物）採集等のユニークな農業活動が、観光の対象になりうる。

### e. 観光ネットワークの強化

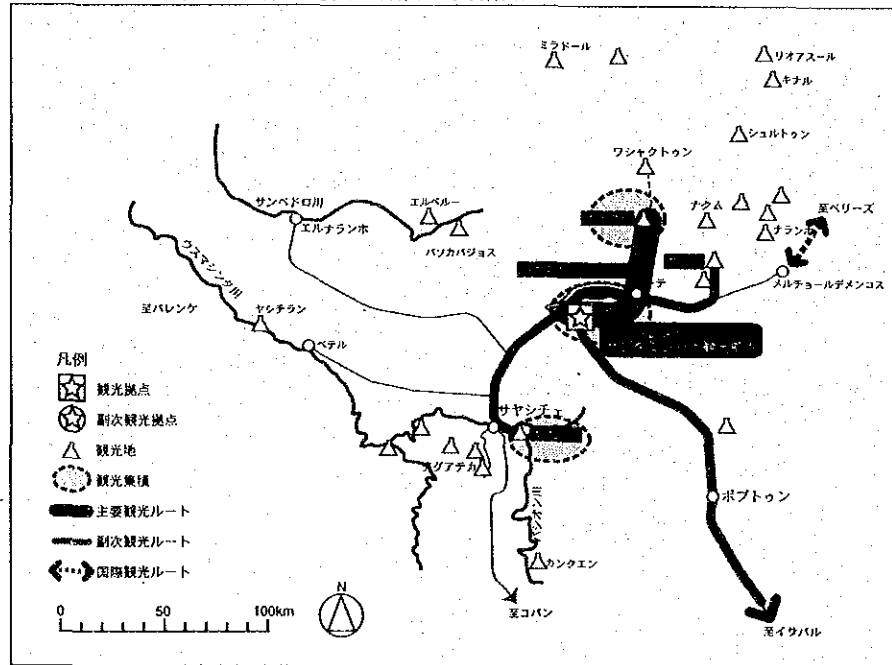
ペテン地域はムンドマヤ圏の中心に位置するにもかかわらず、周辺観光地との結びつきが弱い。ペテン地域の周辺には、コバンの雲霧林、世界遺産に登録されている

パレンケ遺跡やベリーズのサンゴ礁等魅力度の高い観光資源が多数あり、観光市場として重要なメキシコ湾岸油田地帯にも近い。近隣観光地との相乗効果をあげるためにも、観光便益をより広範な地域に及ぼすためにも、さらに近隣国からの誘客を図るためにも、観光ネットワークの強化を図る必要がある。

(3) 開発シナリオと観光空間構造

前述の開発基本方針に優先順位をつけ、開発基本方針を実現する手順を明らかにしたものを開発シナリオと呼ぶ。図表 3.6はペテン地域の現況を示しているが、観光活動はフローレスとティカルに集中し、冒頭で触れたように、観光の多様化を通じた来訪者の分散が必要とされている。

図表 3.6 ペテン地域の現在の観光空間構造



出典： JCA 調査団

ペテン地域の開発シナリオは、現況分析の結果を踏まえて設定した以下の方針に基づいて定めた。

- 遺跡観光はペテン観光の中核であり、即効性が期待できるので、遺跡観光多様化を最重点項目とする。
- 自然観光、文化観光、リゾート観光の開発も必要であり、戦略的な観点から早期実施が必要なものもあるが、遺跡観光の多様化より優先度は低い。

### a. 短期計画

短期計画段階では、遺跡観光の多様化に重点を置き、ペテンイツァーリゾート化計画に関しては、特に重要なもののみを実施する。具体的には以下のような観光整備を進める。

- 来訪者受入が可能な遺跡の観光施設整備の実施
  - － ヤシヤ遺跡、ナクム遺跡の来訪者施設整備
  - － セイバル遺跡、アグアテカ遺跡の来訪者施設整備とリパークルーズ施設整備
  - － フシャクトウン遺跡の来訪者施設の整備
- ペテンイツァーリゾート化計画の一部のプロジェクトの実施
  - － サンホセへの集落観光の導入
  - － フローレスの観光改善
  - － ペテンイツァー湖の環境改善計画策定
- ティカルへの来訪者管理システム導入計画策定

来訪者施設整備を行なう遺跡は、長期計画段階での観光多様化への展開も考慮して選定している。ヤシヤとナクム遺跡の整備では周辺地域での熱帯雨林の観光利用を、セイバルとアグアテカ遺跡の整備ではリパークルーズの導入を、フシャクトウン遺跡においてはフシャクトウン村の集落観光と、ミラドール等ペテン県北部遺跡群への軽冒険旅行の探検拠点としての機能を持たせることを視野に入れている。

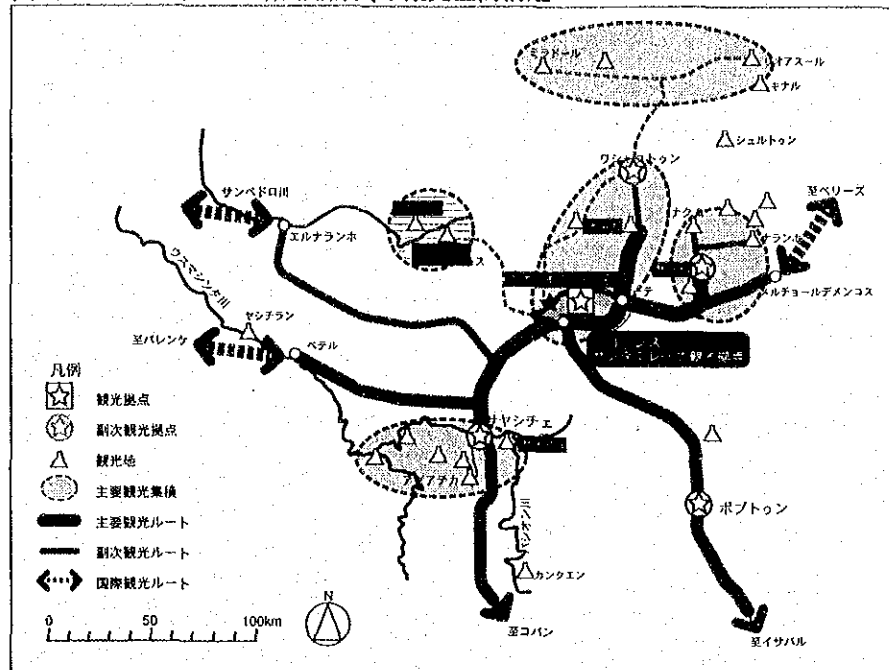
ペテンイツァーリゾート化計画に関しては、ペテンイツァー湖の環境改善計画を策定し、長期計画段階で本格化すると考えられる民間ホテル投資に備える。またコロニアル都市として魅力のあるフローレス市の観光アメニティーの向上と、フローレス対岸のイツァーマヤ族の村であるサンホセの集落観光施設の整備を開始し、滞在型観光地への脱皮を図るための下準備を短期計画段階では行なう。

以上を踏まえ、図表 3.7に示すようにペテン地域の短期計画段階での観光空間構造を設定した。





図表 3.8 ペテン地域長期計画の観光空間構造



出典： JICA 調査団

上記の観光空間構造の要点は以下のとおりである。

- ・ ペテン州北部の観光利用が本格化し、ミラドール等の北部遺跡群の観光利用が始まり、サンペドロ川流域の観光利用が進む。
- ・ 北部遺跡群の探勝拠点として、ワジャクトゥンの重要性が増す。
- ・ 観光地間の結びつきがさらに強化される。

#### (4) 市場戦略

ペテン地域の市場戦略は以下の図表 3.9に集約される。

図表 3.9 ペテン地域の市場戦略

地域市場	有望な商品、振興策等
国内	自動車旅行の振興、MICE
メキシコと中米	コロニアル都市と湖畔リゾート
北米	遺跡と自然
その他アメリカ	遺跡とコロニアル都市
ヨーロッパ・アジア他	遺跡と自然、イサバルのビーチとの組合せ（ヨーロッパのみ）

出典： JICA 調査団

#### (5) 開発フレーム

ペテン地域の開発フレームワークを図表 3.10に示すとおりに設定した。ペテン地域への来訪者数は、2000年には国内・海外を併せて25万人だったが、2010年には約42万人、2020年には70万人に達すると予想される。

図表 3.10 ペテン地域の開発フレームワーク

		2000		2010		2020	
		人泊	来訪数	人泊	来訪数	人泊	来訪数
ホテル 来訪数	合計	694,537	251,553	1,184,879	417,875	1,943,022	698,862
	国内	135,629	90,419	198,438	132,292	340,246	226,831
	国際	558,908	161,134	986,441	285,583	1,602,776	472,032
	短距離市場	107,514	34,744	198,542	64,598	355,579	115,764
	中距離市場	249,498	67,572	393,256	106,427	606,079	166,522
長距離市場	201,349	58,544	394,644	114,558	641,117	189,746	
必要 客室数	合計		1,921		3,111		4,987
	高級		72		233		553
	中級		821		1,518		2,776
	低級		1,028		1,360		1,658

出典： JICA 調査団、INGUAT

### 3.1.4. 開発プロジェクト

#### (1) プロジェクト評価

既存計画、地域の関係者から提案されたプロジェクト、JICA 調査団提案によるプロジェクトを以下の4つの規準に基づいて3段階評価を行なった。

- 開発戦略との整合性：ペテン地域においては、遺跡観光、および自然観光と遺跡観光を組合せた観光商品の開発を重視
- 開発効果：来訪者の増加等大きな開発効果、あるいは即効性の有無
- 熟度：ホスト側の観光開発に対する意志の有無についても評価
- 公的機関による支援の必要性：プロジェクトの技術的難しさ、グアテマラ国内での前例の乏しさ等、公的機関による戦略的支援の必要性

総得点が 11 点以上のものを「短期パイロットプロジェクト」、7点から 10 点までを「その他短期プロジェクト」、それ以下のものを「長期プロジェクト」とした。

#### (2) 短期パイロットプロジェクト

##### a. ヤシャ・ナクム遺跡観光改善

##### プロジェクトの概要

ヤシャ、ナクムの両遺跡はフローレスから約 70km 東に位置し、ティカルとともにマヤ古典期を代表する遺跡である。両遺跡は比較的発掘と修復作業が進み、交通条件にも比較的恵まれ、また、ヤシャ遺跡は風光明媚なヤシャ湖に面している。こうしたことから両遺跡の来訪者施設とアクセス道路を整備し、新しい遺跡観光の中心地として整備する。プロジェクトのコンポーネントは以下のとおりである。

- アクセス道路建設：ヤシャ・ナクム間砂利舗装道 15km
- 来訪者施設整備：来訪者センター、管理棟、電気、修景、標識・案内板等

##### 実施体制

人類学歴史庁(DAEH)がプロジェクト全体の実施の責任を負い、来訪者施設の運営を行なう。通信インフラ住宅省(MICVI)はアクセス道路の建設を行なう。

IDAEHはINGUAT、MICVI、MICUDE、CONAP、INFOM、ムンドマヤ機構、メルチョール・デ・メンコス町、周辺地域の観光事業者、ラ・マキナ集落の代表者等からなるプロジェクト実施委員会を組織し、関係者間の利害の調整を図りつつプロジェクトを実施する。プロジェクト実施委員会は、施設整備完成后、観光地協働管理のための委員会へと改組を行なう。

#### b. マヤ研究学習センター

##### **プロジェクトの概要**

マヤ遺跡が集積するヤシャ・ナクム・ナランホ三角地帯の入口に位置するラ・マキナ集落に、マヤ文化に関する研究と、考古学について学びたいと考える観光客のための施設を建設し、この一帯をペテン地域の副次観光拠点として発展させる。施設計画に際しては、地元集落にショッピングや飲食等のビジネス機会が生じるように立地場所等に配慮する。主要な機能は以下のとおりである。

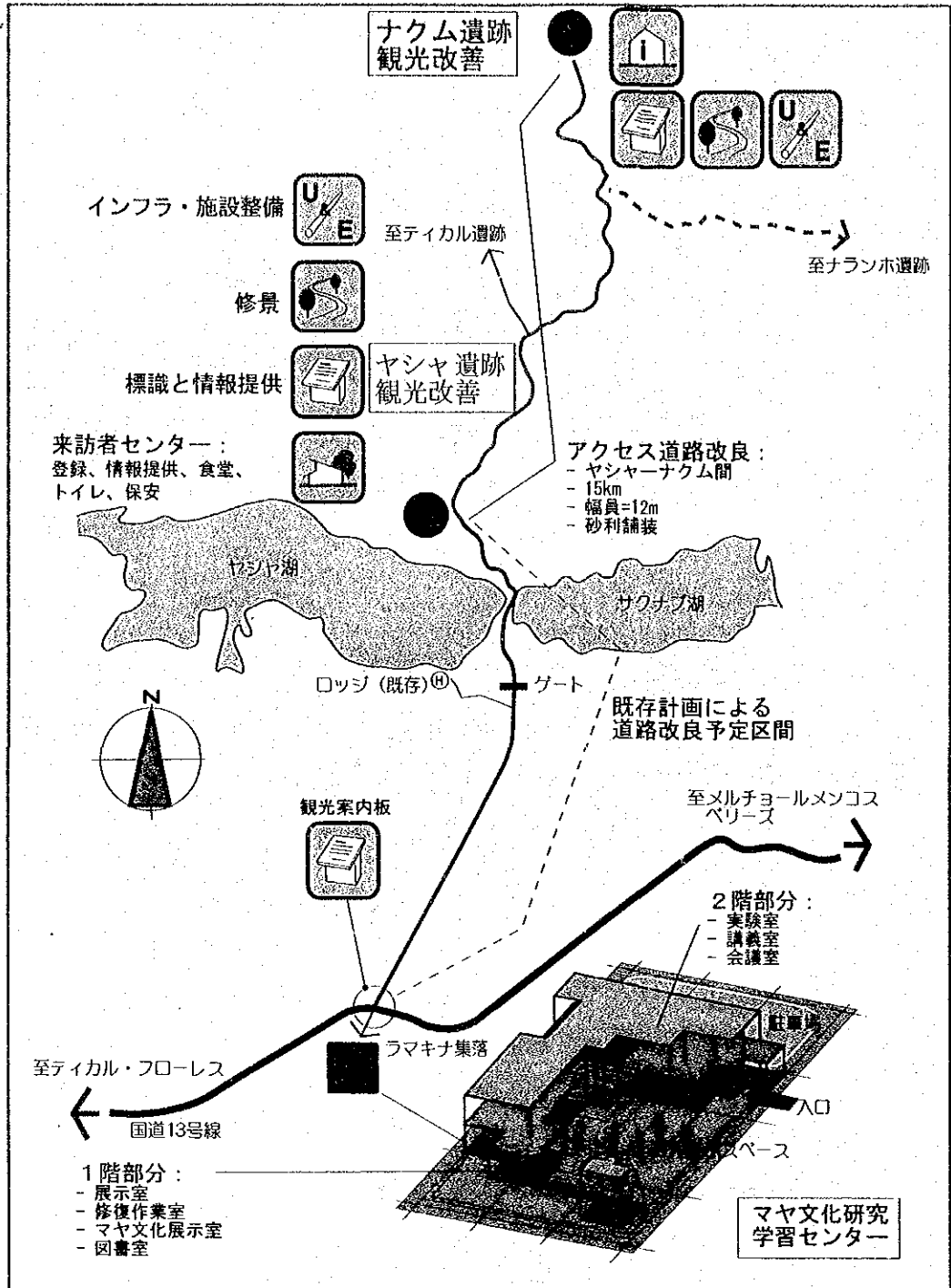
- マヤ考古学の研究と学習の場の提供
- 周囲の遺跡の発掘品の保存・展示
- マヤ考古学に関するイベントの開催
- ヤシャ・ナクム・ナランホ三角地帯の管理

##### **実施体制**

人類学歴史庁(IDAEH)がプロジェクト実施と運営の責任を負う。

ヤシャ・ナクム遺跡観光改善プロジェクトのプロジェクト実施委員会が、当プロジェクトのプロジェクト実施委員会を兼ねる。

図表 3.11 ヤシヤ・ナクム遺跡観光改善とマヤ研究学習センターのイメージ



出典: JICA 調査団

**c. セイバル・アグアテカ遺跡観光改善****プロジェクトの概要**

フローレスの南西 60km に位置するサヤシチェ周辺には、パシオン川沿いにマヤ遺跡が多数分布する。アグアテカとセイバル遺跡はその中でも比較的発掘が進み観光的魅力度も高い。この両遺跡とベテシュパトゥン湖を訪れるリバークルーズのための来訪者施設の整備を行なう。

- リバークルーズ関連施設整備：ポート桟橋、ポートターミナル
- 遺跡内来訪者施設整備：サイト博物館、来訪者センター、水、探索路、修景、標識・案内板等

**実施体制**

人類学歴史庁(IDAEH)がプロジェクト実施の責任を負う。

IDAEH は INGUAT、MICUDE、CONAP、INFOM、サヤシチェ地域観光委員会、両遺跡近隣集落の代表からなるプロジェクト実施委員会を組織し、関係者間の利害の調整を図りつつプロジェクトを実施する。プロジェクト実施委員会は、施設完成後は協働管理のための観光協会へと改組を行なう。

**d. 考古学・地域文化センター****プロジェクトの概要**

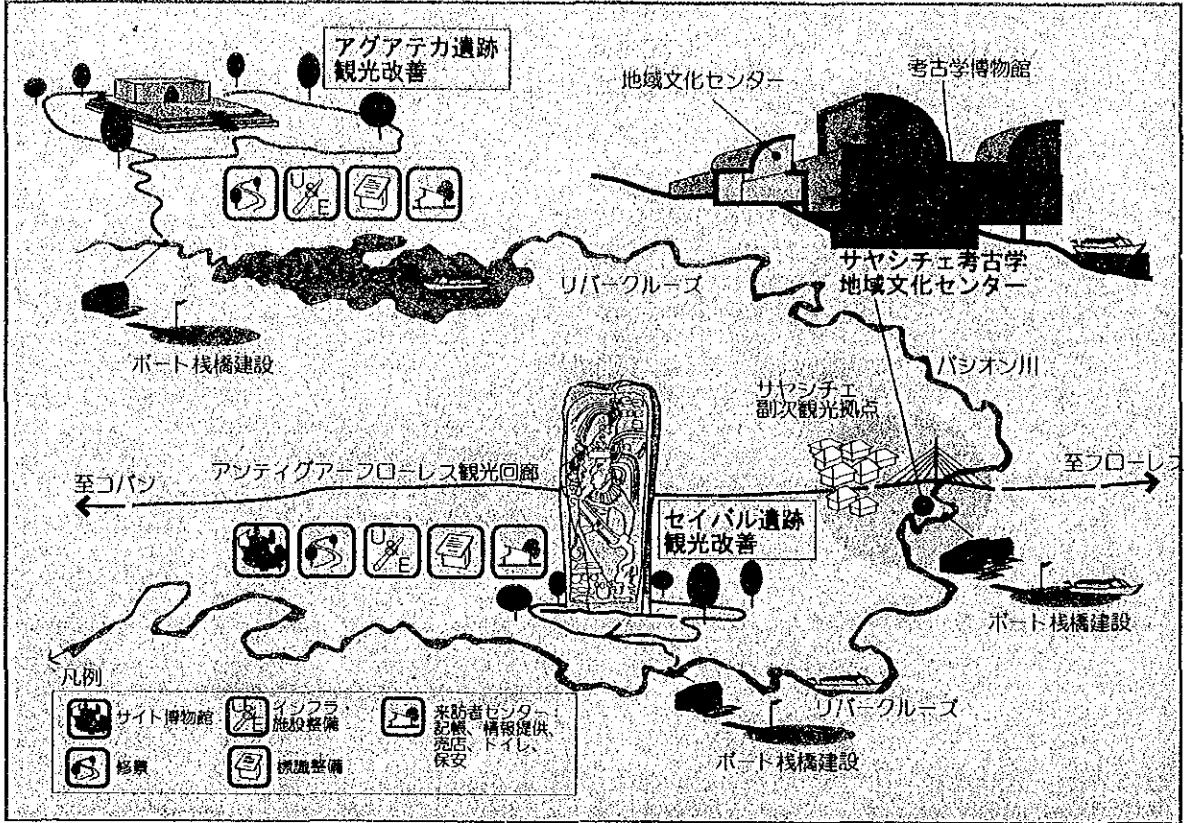
サヤシチェ周辺には多数のマヤ遺跡が分布するが、これらの遺跡の発掘品を盗難・盗掘から守り、安全に収蔵する施設が必要とされている。一方、サヤシチェはフローレスからアルタベラパス県のコバンおよびメキシコのパレンケ方面へ向かう観光ルートの結節点に位置し、観光客向けに地域の観光情報を提供する施設が必要とされている。そのためサヤシチェに遺跡の発掘品の収蔵展示、地域住民向けの広報と保全教育、地域の観光情報提供を行なう施設を建設する。

**実施体制**

人類学歴史庁(IDAEH)がプロジェクト実施と運営の責任を負う。サヤシチェ町が土地を提供し、その見返りに、IDAEH は施設の一部をサヤシチェ町の観光情報提供のために提供する。

IDAEH は INGUAT、MICUDE、CONAP、サヤシチェ地域観光委員会、両遺跡近隣集落の代表等からなるプロジェクト実施委員会を組織し、関係者間の利害の調整を図りつつプロジェクトを実施する。なおこの委員会はセイバル・アグアテカ遺跡整備プロジェクト実施委員会と共通のものとする。

図表 3.12 セイバル・アグアテカ遺跡と考古学・地域文化センター整備計画



出典 JICA 調査団

e. ワシャクトゥン遺跡観光改善

プロジェクトの概要

ティカル遺跡の北 20km に位置するワシャクトゥン集落は、同名のマヤ遺跡とシャヤテとチクレの採集地として知られ、長期的にはベテン州北部の遺跡の探勝拠点として重要性を増すことが期待される。長期計画段階での集落観光導入を視野に入れ、短期計画段階では、以下のコンポーネントからなるワシャクトゥン遺跡の来訪者施設関連の整備を行なう。

- ティカルからのアクセス道路の改良
- 来訪者施設整備：駐車場、洗面所、水、電気、管理事務所、修景、標識・案内板

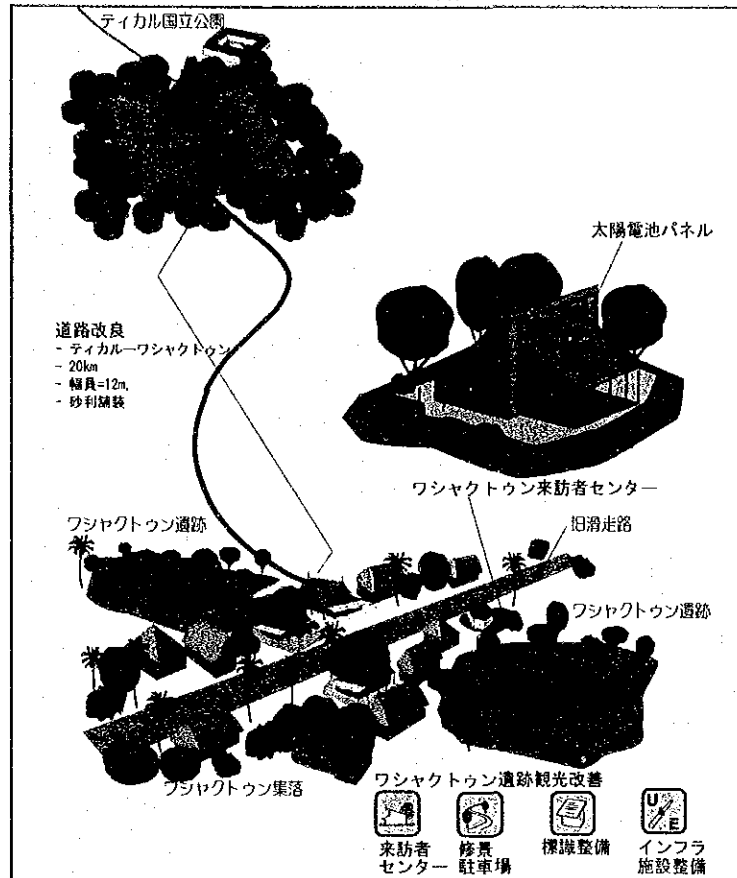
実施体制

IDAEH がプロジェクト実施の責任を負う。IDAEH が来訪者施設の建設と運営を担当し、アクセス道路は通信インフラ住宅省(MICIVI)が建設と維持を担当する。

IDAEH は INGUAT、MICIVI、保護地域委員会(CONAP)、文化スポーツ庁(MICUDE)、自治体振興庁(INFOM)、フロレス市、ワシャクトゥン集落の代表等からなる、プロジェクト実施委員会を組織し、関係者間の調整を図りつつプロジェクトを実施する。

プロジェクト実施委員会は、工事完成后、ワシャクトウン集落観光実行委員会に改組を行ない、集落観光構想の実現を目指す。

図表 3.13 ワシャクトウン遺跡観光改善計画イメージ



出典： JICA 調査団

### (3) その他短期プロジェクト

#### a. サンホセ集落観光整備

ペテンイツァーリゾート化構想の一環として、イツァーマヤ族の住む湖岸の風光明媚な村、サンホセに集落観光を導入し、以下の施設の整備を進める。

- ・ 入村センター
- ・ イツァーマヤ文化博物館、
- ・ 薬草ハーブ博物館
- ・ モトゥル考古遺跡の整備等

#### b. フローレス市観光改善

ペテンイツァーリゾート化構想の一環として、湖に浮かぶコロニアル都市フローレスの観光的魅力とアメニティーの向上のために以下の整備を実施する。

- ・ 瓦屋根への葺き替えの奨励



- 建築基準の設置：色づかい、材料、標識看板の形状の統一・調和等
- 湖畔へのアクセス改善

**c. ペテンイッツァー湖環境改善**

ペテンイッツァー・リゾート化計画の一環として、近い将来本格化すると考えられる民間ホテル投資による湖の水質悪化を防止するため、環境改善調査を実施し、湖水の水質管理のためのマスタープランを策定する。

**d. ティカル国立公園来訪者管理システム策定**

ペテン地域でもっとも知名度の高いティカル遺跡では、来訪者の増加にともない、混雑や資源の劣化等の問題が発生する恐れがある。こうした事態を防ぐため、来訪者管理システムの計画立案を行なう。

**e. シルバヌス考古博物館の改良**

ティカル遺跡に隣接するシルバヌス考古博物館の既存施設を改善する。

**(4) 長期プロジェクト**

**a. ペテンイッツァーリゾート化計画**

短期計画に引き続き、ペテンイッツァー湖のリゾート化を進めるために、以下の観光整備を実施する。

- ペテンイッツァー周回道路の改良
- タヤサル遺跡の整備：フローレス島が一望できるタヤサル遺跡の整備
- コンベンション・センター建設
- ボート・クルーズ施設整備
- ペテンシート動物園の施設改良
- リゾートホテルへの民間投資の誘致

**b. 遺跡の来訪者施設整備**

ミラドール、ナランホ、ドス・ピラス、エル・ペルー、エル・ソツツ等、短期計画段階では来訪者受入が難しかった重要遺跡の来訪者施設整備を行なう。

**c. 集落観光施設の整備**

サンホセの集落観光施設の充実と、フジャクトウンへの集落観光の導入を図る。

**d. 自然観光関連施設整備**

サンペドロ川ーティグレ湖一帯の来訪者施設の整備等を実施する。

## (5) 建設費

ペテン優先観光開発地域の短期パイロットプロジェクトの総建設費は 1400 万米ドルである。費用の明細は図表 3.14 に示すとおりである。民間ホテル投資を含むパイロットプロジェクト以外の短期プロジェクトの総建設費用は 1910 万米ドルである。

図表 3.14 ペテン優先観光開発地域の短期パイロットプロジェクト建設費

整理番号	プロジェクトとコンポーネント	費用 (1000 米ドル)	備考
ペテン優先観光開発地域総計		14,043	
PSP-01	ワジャクトゥン遺跡観光改善		
	a. アクセス道路	3,600	幅員 12m、砂利舗装
	b. 電気供給	1,320	隣接集落を含む
	c. 来訪者センター	60	木造平屋建て
	d. 修景と駐車場整備	20	建物と駐車場周辺
	e. その他基盤施設	8	浄化槽と井戸水
	f. 機材	6	建物用
	g. 標識と案内板	16	
	建設費小計	5,030	
PSP-02	ヤンヤ・ナム遺跡観光改善		
	a. アクセス道路	2,700	幅員 12m、砂利舗装
	b. 電気供給	720	国道 13 号線から
	c. 来訪者センター	100	木造平屋建て
	d. 情報センター	50	木造平屋建て
	e. 修景と駐車場整備	12	建物と駐車場周辺
	f. その他基盤施設	8	浄化槽と井戸水
	g. 機材	6	建物用
	h. 標識と案内板	8	
	建設費小計	3,604	
PSP-03	マヤ研究学習センター建設		
	a. 本館建物	1,200	鉄筋コンクリート二階建て
	b. 修景と駐車場整備	168	本館周辺と駐車場
	c. 基盤施設	40	浄化槽と井戸水
	d. 機材	240	建物用
	e. 特殊機材	200	実験室、図書室等
	建設費小計	1,848	
PSP-04	1) アグアテカ・セイバル遺跡観光改善		
	a. アクセス歩道	80	アスファルト舗装
	b. サイト博物館	80	木造平屋建て
	c. 野外博物館	200	出土品レプリカの展示
	d. 来訪者センター	75	木造平屋建て
	e. 修景と駐車場整備	40	建物と駐車場周辺
	f. 基盤施設	18	浄化槽、井戸水、発電機
	g. 機材	14	建物用
	h. 標識と案内板	13	
	建設費小計	520	
	2) バシオン川クルーズ施設整備		
	a. ボート桟橋	400	サヤンチェ、アグアテカ、セイバル
	b. 係留施設	1,000	
	c. ターミナル	75	木造平屋建て
	d. 土産物店	15	木造平屋建て
	e. 機材	10	建物用
	f. 洗面所	40	木造とコンクリートブロック造
	g. 基盤施設	16	浄化槽
	h. 修景と駐車場	240	建物と駐車場周辺
	i. 土地造成	300	川岸
	建設費小計	2,096	
PSP-05	考古学・地域文化センター建設		
	a. 展示施設	800	鉄筋コンクリート 2 階建て
	b. 修景と駐車場	60	建物と駐車場周辺
	c. 基盤施設	5	浄化槽と水道管
	d. 機材	80	建物用
	建設費小計	945	

注： a) 税金は含まれていない。

b) 物価上昇、インフレ、予備費、エンジニアリング費用、許認可費用は考慮されていない。

出典： JICA 調査団

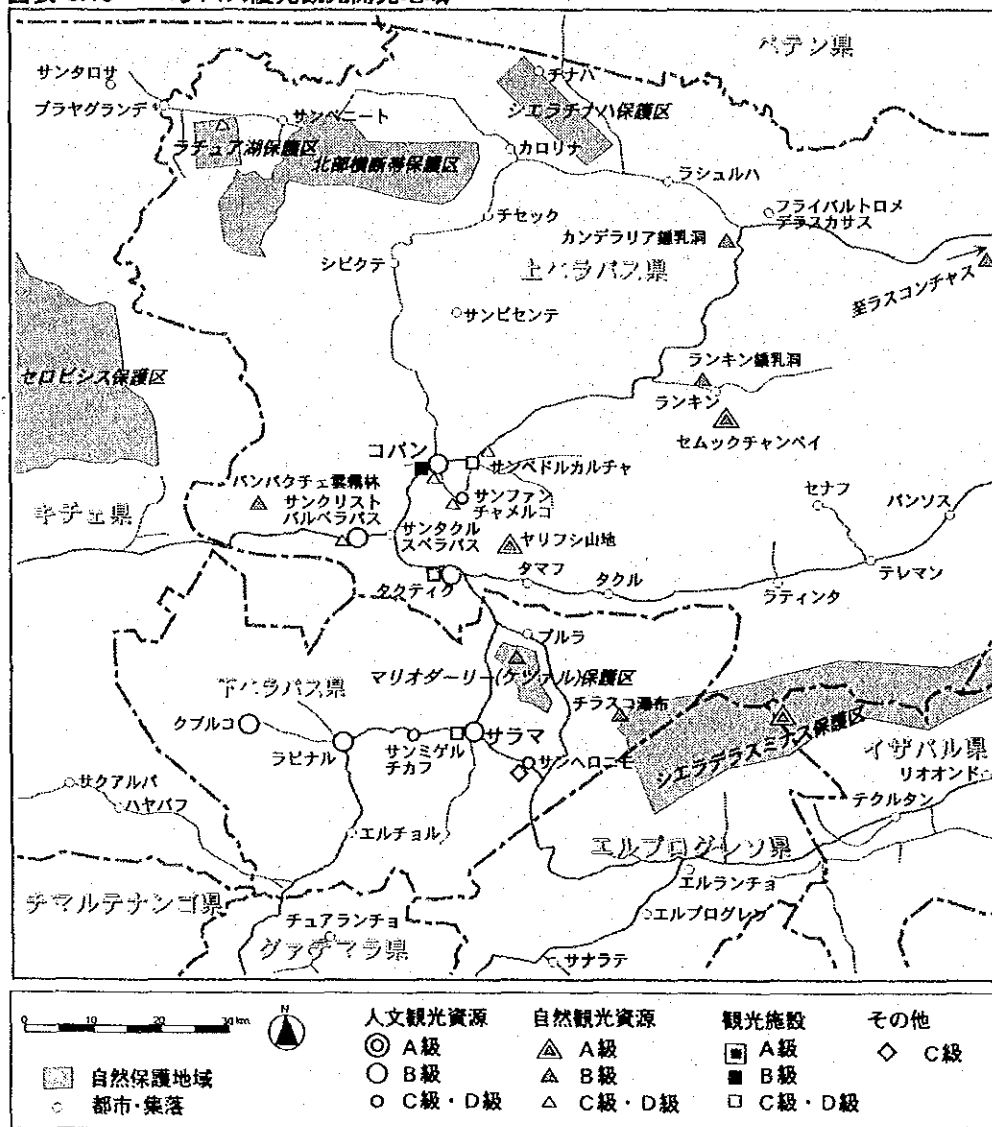
### 3.2. ベラパス優先観光開発地域

#### 3.2.1. 地域の概要

ベラパス優先観光開発地域は上ベラパスと下ベラパスの2県から成り、INGUAT の「自然の楽園」観光圏に対応する。

この地域は先スペイン時代にはカカオ豆、19 世以降はコーヒー、近年はカルダモン の生産で世界的に知られ、グアテマラ有数の農業地帯である。両県にまたがる山岳 地帯にはグアテマラの国鳥ケツアルが生息する雲霧林が残されているが、急速な森 林伐採が進行し、早急な対策が必要とされている。またこの地域はグアテマラ高地 からペテン低地へ抜ける南北交通路と、ウェウエテナンゴ、キチエ両県からカリブ 海へ抜ける東西交通路の交差点にあたり、今後は観光交通ネットワークの要とし て重要性を増すことが期待されている。

図表 3.15 ベラパス優先観光開発地域



出典： JCA 調査団

先住民比率は上ベラパスで 86%、下ベラパスで 56%となっており、上ベラパスは先住民比率の高い県のひとつとなっている。貧困線以下で暮らす人々の比率は上ベラパスで 76%、下ベラパスで 72%といずれも高く、人間開発指標(HDI)で見ると、上ベラパスはグアテマラ 22 県中最低となっている。こうした貧困が、急速に進む森林伐採とペテン県への移住の背景になっていると考えられる。

ベラパス地域では 2000 年には 39 万人泊、22 万人の来訪者があり、このうち 17 万人、77%が国内客と推定される。図表 3.16に示す来訪者の特性と、旅行業界のヒアリングの結果を総合すると、エルサルバドルからの家族旅行と欧米からのバックパッカーが、国際来訪者の中では重要な市場セグメントとなっている。

図表 3.16 ベラパス地域への来訪者への市場特性

項目	ベラパス優先観光開発地域		グアテマラ全土	
	来訪数	(%)	来訪数	(%)
来訪者タイプ	205	100.0%	3,046	100.0%
個人観光	137	66.8%	1,320	43.3%
団体旅行	8	3.9%	166	5.4%
業務	33	16.1%	943	31.0%
友人知人訪問	24	11.7%	562	18.5%
その他	3	1.5%	55	1.8%
地域市場	205	100.0%	3,037	100.0%
近隣諸国	107	52.2%	1,585	52.2%
北米	43	21.0%	785	25.8%
南米	5	2.4%	142	4.7%
ヨーロッパ	40	19.5%	402	13.2%
その他	10	4.9%	123	4.1%

出典: JICA 調査団、来訪者調査 (2001 年 3 月、7 月)

図表 3.17はベラパス地域の観光資源の評価の結果を示したもののだが、ヤリフシ山地の雲霧林、石灰岩の奇岩怪石で知られるセムックチャンペイ等、自然観光資源が重要なことがわかる。先住民人口比率の高さを反映し、人文観光資源にも比較的魅力度の高いものが見られる。

図表 3.17 ベラバス地域の観光資源評価

名称	県	市/村	分類				評価
			人文	自然	施設	その他	
コロニアル都市景観・建築	上ベラバス	コバン	X				C
民族舞踊祭	上ベラバス	コバン	X				B
ビクトリアス公園	上ベラバス	コバン		X			D
マヤ王子博物館	上ベラバス	コバン			X		C
サンタマルガリータ農園	上ベラバス	コバン			X		B
ベラバス蘭園	上ベラバス	コバン			X		B
カティナミット博物館	上ベラバス	サンクリストバルベラバス	X				B
集落景観	上ベラバス	サンクリストバルベラバス	X				B
チチョフ湖	上ベラバス	サンクリストバルベラバス		X			D
サンファンチャメルコ祭	上ベラバス	サンファンチャメルコ	X				D
マルコス王鍾乳洞	上ベラバス	サンファンチャメルコ		X			C
ラスイスラス浴場	上ベラバス	サンベドロカルチャ		X			D
サンベドロカルチャ博物館	上ベラバス	サンベドロカルチャ			X		C
チイシム教会	上ベラバス	タクティク	X				C
集落景観	上ベラバス	タクティク	X				B
チャムチェ浴場	上ベラバス	タクティク			X		D
クブルコ祭	下ベラバス	クブルコ	X				B
クブルコ市場	下ベラバス	クブルコ	X				C
ラビナル教会	下ベラバス	ラビナル	X				D
サンベドロ祭	下ベラバス	ラビナル	X				B
陶芸	下ベラバス	ラビナル	X				B
ラビナル市場	下ベラバス	ラビナル	X				C
サラマ教会	下ベラバス	サラマ	X				D
サラマ祭	下ベラバス	サラマ	X				B
サラマ市場	下ベラバス	サラマ	X				C
サンロレンソ農園	下ベラバス	サラマ			X		D
ロスアルコス (砂糖工場跡)	下ベラバス	サンヘロニモ	X				C
アグアディエンテ酒	下ベラバス	サンヘロニモ				X	C
サンミゲルチカフ祭	下ベラバス	サンミゲルチカフ	X				C
サンミゲルチカフ織物	下ベラバス	サンミゲルチカフ	X				C
セムックチャンベイ	上ベラバス	-		X			A
ラチュア湖	上ベラバス	-		X			B
チラスコ瀑布	下ベラバス	-		X			B
カンデラリア鍾乳洞	上ベラバス	-		X			B
ランキン鍾乳洞	上ベラバス	-		X			B
ラスコンチャス鍾乳洞	上ベラバス	-		X			B
ヤリフシ山地	上ベラバス	-		X			A
パンバクチェ山地	上ベラバス	サンクリストバルベラバス		X			B
ゲツァル保護区	下ベラバス	-		X			B
カキック	-	-				X	C

出典： JCA 調査団

## 3.2.2. 持続的成長のための配慮

持続的成長を確保するために必要とされる配慮のうち、ベラパス優先観光開発地域の開発計画策定にあたって特に重要なものは、以下のとおりである。

図表 3.18 持続的成長のための主要配慮項目

自然環境	社会環境	人文観光資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路開発にともなう森林破壊の危険性に配慮した計画作り</li> <li>キャノピーウォーク施設建設時の景観への配慮</li> <li>ジャガー、金剛インコ、トログン等の絶滅危惧種の保護</li> <li>施設インフラのデザインと周辺自然環境との調和への配慮</li> <li>アクセス道路や探勝路建設に際しての自然環境への十分な配慮</li> <li>施設やインフラの植栽に固有種の採用</li> <li>観光地でのゴミ処理の強化</li> <li>生態回廊形成の促進と支援</li> <li>民間保護区、市町村・集落保護区設立の支援と奨励</li> <li>環境意識向上キャンペーンの実施</li> <li>グアテマラの自然観光地の宣伝の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光産業導入の可否の決定に際しての、集落住民の意志の尊重</li> <li>観光客誘客のための先住民文化の安易な誇張や変更の禁止</li> <li>観光商品として提示されるものを選択する際の地域住民の意志の尊重</li> <li>観光客に対する先住民集落でのマナーや作法に関する広報活動の実施</li> <li>カカオ、コーヒー、カルダモン等の地域農産品の観光利用</li> <li>「協働管理」による周辺地域住民の観光開発への参加</li> <li>集落や地域住民による企業の設立支援</li> <li>観光や自然保護に関する訓練と就業機会の提供</li> <li>観光宣伝の際の農閑期と農繁期に関する配慮</li> <li>集落観光導入の際の住民意志の尊重と参加型計画手法の採用</li> <li>集落観光運営ための集落レベルの組織設立とそれによる複数の施設・サービス間の整合性確保</li> <li>集落観光導入に際の来訪者に対する「振る舞い規準」の設定と広報</li> <li>集落観光導入の際のゾーニングの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の建物だけでなく、町並等一定の範囲の保全努力</li> <li>新規建造物に対する、伝統建築に配慮した「建築デザイン基準」の導入</li> <li>探勝路の整備とそれに関する情報提供の強化</li> <li>伝統的建造物の「賢明利用」の促進</li> <li>伝統的建造物に対する、安全性や快適性を向上させるための最低限の改築の許容</li> <li>地域住民の意識向上のための歴史建造物への案内板の設置</li> <li>文化遺産に対する意識向上キャンペーンの実施</li> <li>伝統的建造物内装に関するオリジナル意匠の尊重</li> <li>酸性雨や大気汚染からの保護</li> </ul>

出典： JCA 調査団

### 3.2.3. 観光開発戦略

#### (i) ベラパス地域観光の SWOT 分析

ベラパス優先観光開発地域の開発戦略は、図表 3.19に示す SWOT 分析の結果に基づいて策定されている。

図表 3.19 ベラパス地域観光の SWOT 分析

	正	負
現況	<p><b>強み (strength)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際空港があり、最大の国内市場でもあるグアテマラ市に比較的近い(200km)。</li> <li>グアテマラ国内や近隣国では雲霧林の見られる自然観光地として比較的知名度が高い。</li> <li>コーヒー、カルダモン、カカオ等の農業や先住民文化、祭り等、自然以外の潜在的観光商品にも恵まれている。</li> </ul>	<p><b>弱み (weakness)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口の急増と農業への過度の依存によって、森林伐採が急速に進んでいる。</li> <li>価格変動の激しいコーヒー等の商品作物への依存が強く、地域経済が不安定である。</li> <li>エコロッジ等の自然を楽しむために必要な施設が、質・量ともに不足している。</li> <li>ネイチャーガイドやエコロッジのマネージャー等、自然観光の開発に不可欠な人材が不足している。</li> <li>自然地域の多くは交通の不便な場所であり、観光利用が容易ではない。</li> <li>地域の観光拠点となることが期待されるコバン市は観光的な魅力に欠け、来訪者のための施設やサービスも十分ではない。</li> <li>国際観光市場では、グアテマラの自然観光地としての知名度が低いため、ベラパス地域を中長距離市場に向けて売り込むことは容易ではない。</li> </ul>
将来	<p><b>機会 (opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東西と南北の重要な観光回廊の交差点に位置し、道路の改良によって、中継観光地としての重要性が高まることが期待されている。</li> <li>シエラ・デ・ラス・ミナス保護区とクチュマタン山地を結ぶ「生態回廊」の形成が期待されている。</li> <li>現在世界の観光市場でもっとも成長率が高いといわれる軽冒険旅行やエコツーリズムに適した観光資源に恵まれている。</li> <li>地域で生産される農産品の知名度が高く、農業観光の導入に適している。</li> <li>既存の観光イメージである自然と先住民文化を組合せることによって、市場競争力の強い観光商品を開発できる可能性がある。</li> </ul>	<p><b>脅威 (threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このまま森林伐採が進むとベラパス地域の観光的魅力が消滅してしまう。</li> <li>ベラパス地域の観光的魅力度が向上しないと、ペテンへ行く旅行者の大半は飛行機を利用し、陸路によるベラパス地域経由のルートを選ばない。</li> </ul>

出典： JICA 調査団

## (2) 開発基本方針

SWOT分析でみたように、ベラパス地域は自然破壊の危機に瀕した自然観光地だが、将来的には観光周遊路の結節点として発展する可能性を秘めている。こうしたことを踏まえて、以下の4項目を開発基本方針とした。

- 残存する自然地域の保護
- 農業観光の導入
- 観光を通じた伝統文化の活性化
- 観光ネットワークの結節点機能の強化

### a. 残存する自然地域の保護

森林がベラパス地域の中核となる観光イメージであり、残存する自然地域を守るとは観光の観点からもきわめて重要である。特にグアテマラの生態回廊システムの一部を構成するベラパス生態回廊の形成が特に重要である。ベラパス生態回廊の大半は私有地にあるため、農園主や森林周辺の先住民村落住民の自然保護への協力が不可欠である。そのため自然保護の経済的誘因として機能する観光産業の導入が不可欠である。

### b. 農業観光の導入

農業観光の導入は、ベラパス地域の既存観光イメージと整合性があり、またこの地域で生産されるコーヒーやカルダモン等の農産品の知名度が高いことから、この地域の観光多様化のもっとも現実的な方向だと考えられる。ベラパス地域の農園の中には広大な森林を抱えているものがあり、観光産業の振興によって、これら未開墾の土地が観光資源として意識され、保全されることを狙う。

### c. 観光を通じた伝統文化の活性化

上ベラパス県はグアテマラの中でも先住民比率の高い県の一つであり、両ベラパス県とも生活文化、グルメ、祭り、民芸品等において独特の伝統を保持している。こうした人文観光資源を自然観光と組合せることによって、ベラパス観光の懐を広げることができる。

### d. 観光ネットワークの結節点機能の強化

現在のベラパス地域は交通ネットワークの袋小路に位置しているように見えるが、既存の道路改良計画が実施されると、この地域は東西と南北の観光ネットワークの交差点として重要性を増すことが期待される。

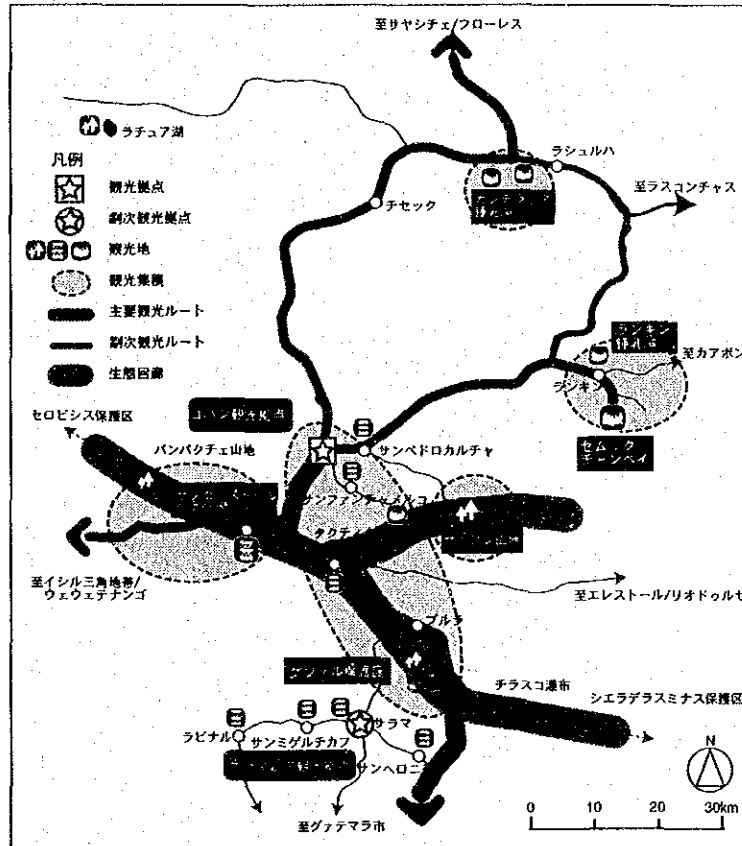




- ベラパス生態回廊形成のための観光地整備
  - － ヤリフシ山地（エコケツアル保護区）の観光施設整備
  - － パンバクチェ森林公園の整備（サン・クリストバル・ベラパスの集落観光の一部）
  - － ベラパス生態回廊学習センターの建設
- サン・クリストバル・ベラパスの集落観光開発
- 農業観光と民間保護区の振興と支援
- コバン・フローレス観光回廊沿いの既存観光地の整備によるコバン・フローレス間の陸路の周遊旅行の振興

以上を踏まえ、図表 3.21 に示すように、短期計画段階での観光空間構造を設定した。

図表 3.21 ベラパス地域短期計画の観光空間構造



出典： JCA 調査団

上記観光空間構造の要点は以下のとおりである。

- 短期計画段階では、比較的交通の便の良いコバン市とグアテマラ市を結ぶ国道沿いを中心にプロジェクトを実施する。
- コバンとフローレスを結ぶ南北観光回廊の形成を図る。
- サン・クリストバルの集落観光の開発は、キチエ、ウエウエテナンゴとコバンを結ぶ東西観光回廊形成の布石としても重要である。

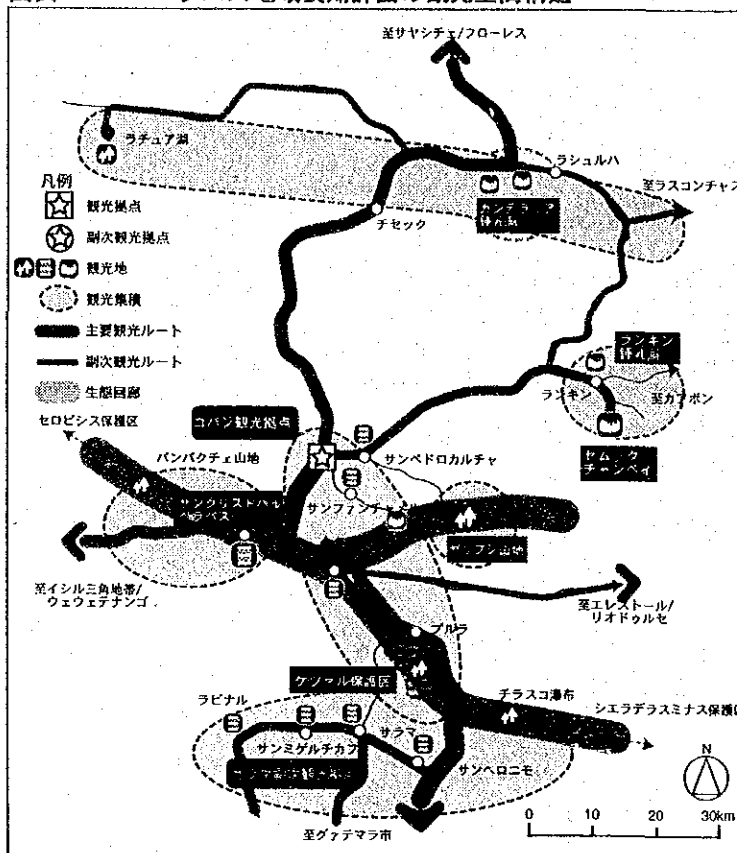
b. 長期計画

長期計画段階では自然観光地以外にも重点を置いて、以下のような整備を行なう。

- 博物館整備と観光客の溜まり場形成に主眼を置いたコバン市内の観光整備
- ラチュア湖、チラスコ瀑布の観光施設整備
- グアテマラ市とサラマを結ぶバイパス道路の改良による下ベラパスへのアクセスの改善
- 東西観光回廊の形成

以上を踏まえて図表 3.22に示すように長期計画の観光空間構造を定めた。

図表 3.22 ベラパス地域長期計画の観光空間構造



出典： JCA 調査団

上記観光空間構造の要点は以下のとおりである。

- 東西観光回廊の形成による、ケツアルテナンゴ、ウェウエテナンゴ地域からの誘客
- 東西観光回廊の形成による、ポロンチック渓谷経由のベラパス地域とカリブ地域との結びつけ

## (4) 市場戦略

ベラパス地域の市場戦略は図表 3.23に集約される。

図表 3.23 ベラパス地域の市場戦略

地域市場	有望な商品、セグメント、振興策等
国内	グアテマラ市からの自然観光客、学生の冒険旅行
メキシコと中米	自然と気候を求めるエルサルバドル人
北米	自然観光と集落観光
その他アメリカ	アンティグア-フローレス間の自動車旅行
ヨーロッパ・アジア・その他	自然観光と集落観光、アンティグア-フローレス間の自動車旅行

出典： JICA 調査団

## (5) 開発フレーム

ベラパス地域の開発フレームワークを図表 3.24に示すとおりに設定した。ベラパス地域への来訪者は、国内外を併せて 2000 年は約 22 万人だったが、2010 年に約 35 万人、2020 年には 58 万人に達すると予想される。

図表 3.24 ベラパス地域の開発フレームワーク

		2000		2010		2020	
		人泊	来訪数	人泊	来訪数	人泊	来訪数
ホテル 来訪数	合計	385,962	224,114	628,514	350,161	1,029,819	576,332
	国内	262,307	174,871	358,368	238,912	581,503	387,669
	国際	107,000	49,243	270,146	111,249	448,316	188,663
	短距離市場	50,064	27,631	98,072	51,277	174,055	89,407
	中距離市場	29,546	9,575	73,811	30,356	122,276	51,522
	長距離市場	44,045	12,037	98,263	29,616	151,984	47,734
必要 客室数	合計		1,314		1,676		2,691
	高級		0		68		159
	中級		576		779		1,476
	低級		738		829		1,056

出典： JICA 調査団、INGUAT

## 3.2.4. 開発プロジェクト

## (1) プロジェクト評価

既存計画、地域の観光関係者から提案されたプロジェクト、JICA 調査団提案によるプロジェクトを、ベテン地域と同様の方法で評価を行なった。開発戦略との整合性に関する評価では、自然観光、特に生態回廊形成に資するプロジェクトに高い評点をあたえた。

## (2) 短期パイロットプロジェクト

## a. ヤリフシ山地観光改善

## プロジェクト概要

ヤリフシ山地はベラパス生態回廊の一部で、雲霧林でケツアルの観察ができることで知られる。これまで地元のケクチ族の家庭でのホームステイとケツアル観察を組み合わせた観光プログラムが NGO エコケツアルの手によって実施されてきたが、インフラと施設が不十分なため、参加者は若年のバックパッカー等に限られ、地元へ

の経済的貢献も限られていた。そこで以下のような整備を行ない、より広範な人々がヤリフシ山地の自然と文化の探勝を楽しめるように図る。

- 遊歩道の整備
- 来訪者センターの建設
- エコロッジの建設
- 水、電気、通信、救急医療施設

#### **実施体制**

INGUAT がプロジェクトの実施の責任を負う。エコロッジは実績のある民間企業に運営を委託し、地元への技術移転を図る。それ以外の施設の運営は地元チカナップ集落の住民が行なう。

INGUAT は、NGO、CONAP、MARN、MAGA、INFOM と地元集落の代表からなるプロジェクト実行委員会を設立し、関係者間の利害を調整しつつプロジェクトを実施する。NGO（エコケツアル）は地元との調整、INFOM は地元住民への観光教育と広報活動、CONAP、MARN、MAGA は INGUAT と地元に対して、それぞれの担当分野での技術的支援を行なう。

#### **b. ベラパス生態回廊学習センター**

##### **プロジェクト概要**

以下の機能を持つベラパス生態回廊学習センターを、国道 14 号線沿いで交通の便の良い下ベラパス県プルーラ町に建設する。

- ベラパス生態回廊に関する一般向け情報提供
- ベラパス地域の自然観光と農業観光に関する宣伝と情報提供
- ベラパス地域の民間保護区、農業観光事業者への技術的支援
- 地域住民に対する環境教育

#### **実施体制**

INGUAT がプロジェクトの実施と施設の運営の責任を負う。

INGUAT は CONAP、MARN、MAGA、プルーラ町、NGO 等をメンバーとするプロジェクト実施委員会を組織し、技術的な支援と利害関係者間の調整を図りつつ、プロジェクトを実施する。

#### **c. パンバクチェ森林公園整備**

##### **プロジェクト概要**

パンバクチェの森はサン・クリストバル・ベラパスの北部に位置し、ベラパス生態回廊の一部を構成するが、農地拡大のため伐採の危機に瀕している。そのため観光の

導入によって地元住民の経済状況を改善し、雲霧林の保全を図る。なおこのプロジェクトはサンクリストバル集落観光の衛星施設のひとつと位置付ける。プロジェクトは以下のコンポーネントからなる。

- レールカート（簡易モノレール）の建設
- 森林遊歩道の整備：休憩所、展望台、標識・案内板
- キャンピーウォーク施設の建設
- エコロッジ建設
- 植林による森林の再生

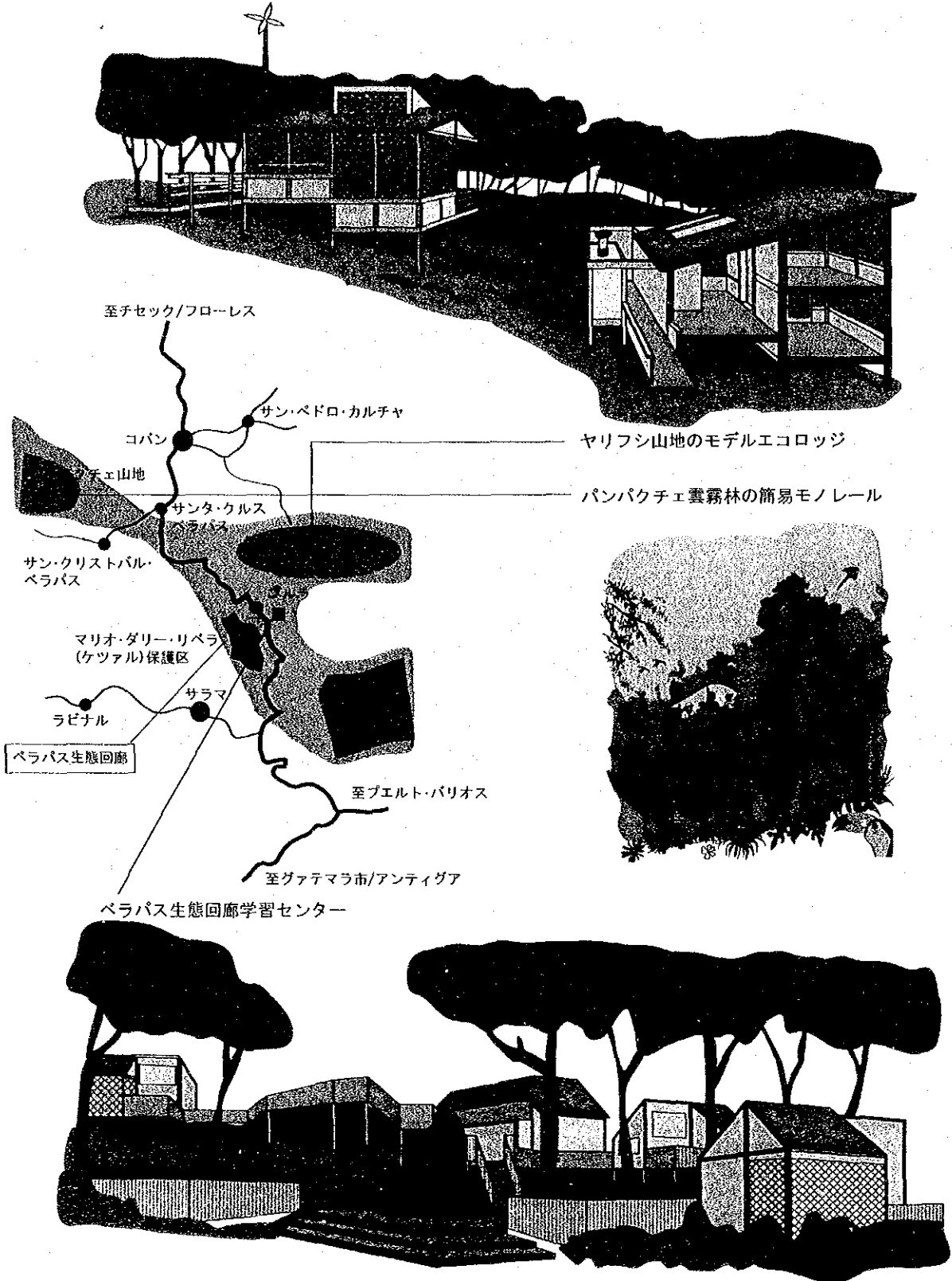
### **実施体制**

INGUAT がプロジェクト全体の実施に責任を持つ。エコロッジは実績のある民間企業に運営を委託し、地元への技術移転を図る。それ以外の施設の運営はサン・クリストバル・ベラパス町が地元住民の協力のもとに行なう。

サン・クリストバル・ベラパス町は、INGUAT の協力のもとで、INAB、CONAP、INFOM、地元のケハ集落、地元の観光業者等からなるサン・クリストバル・ベラパス集落観光実行委員会を設立し、利害関係者間の調整を行ないつつプロジェクト実施を進める。

INGUAT、INFOM 等の省庁は、技術面での支援を行なう。

図表 3.25 ベラバス優先観光開発地域パイロットプロジェクトのイメージ



出典： JCA 調査団

### (3) その他短期プロジェクト

#### a. サン・クリストバル・ベラパス集落観光施設整備

サン・クリストバル・ベラパスはポコムチ族主体の自治体で、すでに有志の手による集落観光の導入が始まっている。パンパクチェ森林公園は、サン・クリストバル・ベラパス集落観光構想の一環を以て、自然観光地イメージの強いベラパス地域において、マーケティングの観点から、この集落観光構想の商品性を強化する役割を担う。パンパクチェ森林公園以外に、以下の整備を行なう。

- 入村センター
- 民芸品ショーケース
- 名物料理レストラン
- コーヒー・さとうきび・フィンカ博物館
- マリンバ工房・コンサートホール

上記施設の整備は町の有志、INGUAT、CONAP 等関係省庁、自治体、民間企業等からなる集落観光実行委員会によって、実施されることが望ましい。

#### b. セムックチャンペイ観光改善

石灰岩の奇岩怪石で有名なセムックチャンペイは上ベラパス州北部の観光地で、ペテン県へ抜ける観光ルート形成の観点からも重視する必要がある。既存の施設に加えて、休憩施設、駐車場から川辺までの遊歩道、洗面所等の整備を行なう。

#### c. カンデラリア鍾乳洞観光改善

カンデラリア鍾乳洞はセムックチャンペイと同様、ペテン県へ抜ける観光ルート形成の観点から重視する。駐車場、駐車場から洞窟入口までの遊歩道、鍾乳洞内の歩道・梯子、洞窟入口周辺の修景等の整備を行なう。

#### d. ランキン鍾乳洞観光改善

ランキン鍾乳洞はカンデラリア鍾乳洞と並ぶ上ベラパス北部の重要な観光資源である。来訪者センターと洗面所の整備、鍾乳洞内歩道の整備、洞窟入口の修景を行なう。

### (4) 長期プロジェクト

#### a. コバン市内観光改善

現在バイパス道路建設とバスターミナル・市場の移転を計画しているコバン市では、長期計画段階で以下のような市内の観光アメニティーの改善を行い、観光都市への脱皮を図る。

- 旧市街の美化、伝統建築の修復、文化イベント等の導入
- 博物館と観光情報センターの整備



- 観光客の溜まり場の整備
  - 歩行者専用道路の整備
  - 賢明利用のための投資誘致
  - 標識、ガイドブック製作、町の入口の整備等、旅行環境の整備
- b. **ラチュア湖観光施設整備**  
上ベラパス州北部のラチュア湖の観光利用を促進するため、アクセス道路の改良、来訪者センター、標識・案内板の整備を行なう。
- c. **チラスコ瀑布観光施設整備**  
中米一の落差を誇る下ベラパス州のチラスコ瀑布の休憩施設、遊歩道等の観光施設を改善する。
- d. **サン・クリストバル・ベラパス集落観光施設整備(継続)**  
短期計画に引き続き、施設の改良・更新、新施設の建設、伝統文化を継承する人材育成を行なう。
- e. **サラマ－グアテマラ間バイパス道路改善**  
グアテマラ市から下ベラパス州サラマへ抜ける景色の良い山越えルートを整備し、首都圏から下ベラパス州へのアクセスを改善する。

## (5) 建設費

ベラバス優先観光開発地域における短期パイロットプロジェクトの総建設費は 300 万米ドルである。建設費の明細は図表 3.26に示すとおりである。パイロットプロジェクト以外の短期プロジェクトの総建設費は 1080 万米ドルである。

図表 3.26 ベラバス優先観光開発地域の短期パイロットプロジェクトの建設費用

整理番号	プロジェクトとコンポーネント	費用 (1000米ドル)	備考
	ベラバス優先観光開発地域総計	2,998	
VSP-01	ヤリフシ山地観光改善		
	a. 来訪者センター	25	木造平屋建て
	b. エコロッジ	200	
	c. 自然探勝路	90	木片敷き
	d. 避難小屋	18	
	e. 標識と案内板	13	
	f. 洗面所	6	
	g. 基盤施設	18	浄化槽、井戸水、発電機
	建設費小計	370	
VSP-02	ベラバス生態回廊学習センター建設		
	a. 学習センター	400	鉄筋コンクリート2階建
	b. 修景と駐車場整備	60	建物周辺
	c. 基盤施設	8	浄化槽と井戸水
	d. 機材	40	建物用
	建設費小計	510	
VSP-03	バンバクチェ雲霧林公園建設		
	a. トレッキング用探勝路	60	
	b. 標識と案内板	20	
	c. 休憩小屋とベンチ	15	
	d. 展望台	5	
	e. 簡易モノレール	30	登山用自走式モノレール
	f. 軌道設置	500	
	g. 橋脚	500	
	h. キャノピーウォーク施設	500	
	i. 展望塔と小屋	30	
	j. 植林	100	
	k. エコロッジ建設	300	木造平屋建て
	l. 機材	30	エコロッジ用
	m. 洗面所	12	
	n. 基盤施設	18	浄化槽、井戸、発電機
	建設費小計	2,120	

注: a) 税金は含まれていない。

b) 物価上昇、インフレ、予備費、エンジニアリング費用、許認可費用は考慮されていない。

出典: JICA 調査団

### 3.3. 西南高原優先観光開発地域

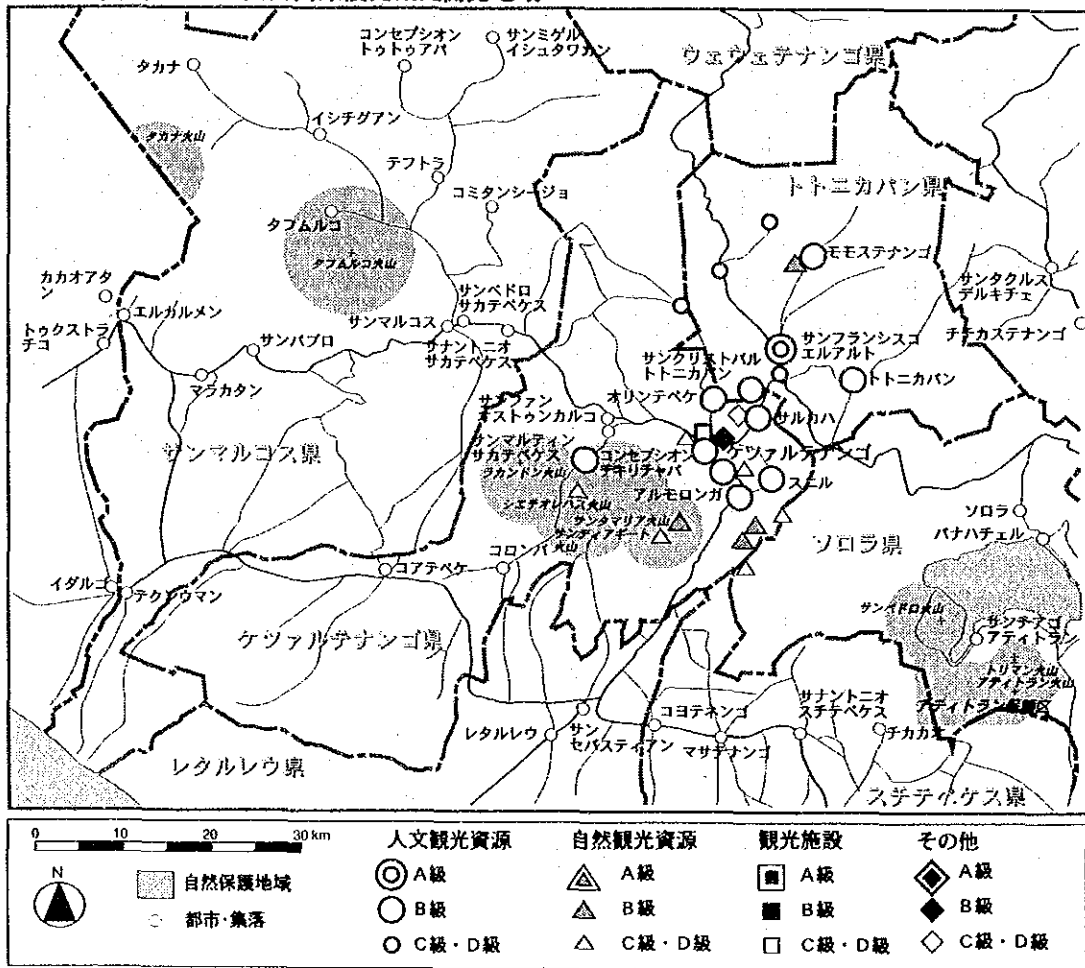
#### 3.3.1. 地域の概要

図表 3.27に示すように、西南高原優先開発地域はケツアルテナンゴ県とトトニカパン県の2県から成り、INGUATの「先住民の高地」観光圏の西南部を占める。

この地域は 16 世紀に征服者ペドロ・デ・アルバラードとキチエ族の王テクン・ウマンの戦いの舞台となった土地で、この戦いにまつわる史跡も多い。地域は海拔 1200-3000m の高原地帯で、サンタマリアをはじめとする火山が多数分布し、温泉が湧出している。人口密度が高く、しかもケツアルテナンゴ県では人口の 60%、トトニカパン県では 95%が先住民である。

農村部の貧困問題が深刻で、ケツアルテナンゴ県人口の 61%、トトニカパン県人口の 86%が、貧困線以下の生活を強いられている。農業を主産業とするが、代替生業または副次生業として、観光産業に期待が寄せられている。

図表 3.27 西南高原優先観光開発地域



出典： JICA 調査団

西南高原地域には2000年に77万人泊、38万人の来訪者があり、そのうち32万人、84%が国内客と推定される。図表 3.28でみると、外客のうちでは個人旅行者とヨーロッパからの来訪者の比率がグアテマラ平均より高い。観光関係者からのヒアリングの結果と併せると、ベラパス地域と同様、遠距離市場からのバックパッカーの比率が相対的に高いと推定される。またスペイン語学校の生徒の占める割合が高いことも特徴となっている。全来訪者のうち国内客が6割以上を占めると推計され、国内市場の比重が相対的に高い。

図表 3.28 西南高原優先観光開発地域への来訪者の市場特性

項目	西南高原優先観光開発地域		グアテマラ全国	
	来訪数	(%)	来訪数	(%)
来訪者タイプ	322	100.0%	3,046	100.0%
個人観光	208	64.6%	1,320	43.3%
団体旅行	18	5.6%	166	5.4%
業務	55	17.1%	943	31.0%
友人知人訪問	39	12.1%	562	18.5%
その他	2	0.6%	55	1.8%
地域市場	322	100.0%	3,037	100.0%
近隣諸国	144	44.7%	1,585	52.2%
北米	90	28.0%	785	25.8%
南米	9	2.8%	142	4.7%
ヨーロッパ	66	20.5%	402	13.2%
その他	13	4.0%	123	4.1%

出典： JCA 調査団、来訪者調査（2001年3月、7月）

次ページの図表 3.29は西南高原地域の観光資源評価の結果を示したもののだが、サンフランシスコ・エル・アルトの定期市をはじめとして、モモステナンゴ、スニル等の先住民文化関連の観光資源に重要なものが多い。この地域は上記以外にも、コロニアル都市、火山、森林、温泉等、多様な観光資源を有している。

図表 3.29 西南高原地域の観光資源

名称	県	市/村	分類				評価
			人文	自然	施設	その他	
コロニアル都市景観・建築	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ	X				B
ケツアルテナンゴ文化会館	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ			X		C
ケツアルテナンゴ美術館	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ			X		C
高原鉄道博物館	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ			X		C
ミネルバ動物園	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ			X		D
語学学校	ケツアルテナンゴ	ケツアルテナンゴ				X	B
ロスバホス温泉	ケツアルテナンゴ	アルモロンガ			X		D
アルモロンガ織物	ケツアルテナンゴ	アルモロンガ	X				B
アルモロンガ市場	ケツアルテナンゴ	アルモロンガ	X				B
アルモロンガ集落景観	ケツアルテナンゴ	アルモロンガ	X				B
ロスバーニョス温泉	ケツアルテナンゴ	アルモロンガ			X		D
カバビックガラス工場	ケツアルテナンゴ	カンテル	X				C
オリンテベケの家畜市	ケツアルテナンゴ	オリンテベケ	X				B
オリンテベケ織物	ケツアルテナンゴ	オリンテベケ	X				C
サンハシント教会	ケツアルテナンゴ	サルカハ	X				D
サルカハ織物	ケツアルテナンゴ	サルカハ	X				B
サルカハ市場	ケツアルテナンゴ	サルカハ	X				C
ロンボボ	ケツアルテナンゴ	サルカハ				X	C
シェクル教会	ケツアルテナンゴ	サナンドレスシェクル	X				B
シェクル祭	ケツアルテナンゴ	サナンドレスシェクル	X				C
サンカルロスシハ市場	ケツアルテナンゴ	サンカルロスシハ	X				D
サンマルティンサカテベケス織物	ケツアルテナンゴ	サンマルティンサカテベケス	X				B
サカテベケス集落景観	ケツアルテナンゴ	サンマルティンサカテベケス	X				C
チカバル湖	ケツアルテナンゴ	サンマルティンサカテベケス		X			C
スニル市場	ケツアルテナンゴ	スニル	X				C
スニル集落景観	ケツアルテナンゴ	スニル	X				C
スニル織物	ケツアルテナンゴ	スニル	X				C
サンタカタリナ祭	ケツアルテナンゴ	スニル	X				B
サンシモン祭	ケツアルテナンゴ	スニル	X				B
フエンテスヘオルヒナス周辺の森	ケツアルテナンゴ	-		X			B
アグアスマルガス周辺の森	ケツアルテナンゴ	-		X			B
アグアスマルガス温泉	ケツアルテナンゴ	-			X		B
フエンテスヘオルヒナス温泉	ケツアルテナンゴ	-			X		B
サンタマリア火山	ケツアルテナンゴ	-		X			B
サンティアギート火山	ケツアルテナンゴ	-		X			C
サントマス火山	ケツアルテナンゴ	-		X			C
スニル火山	ケツアルテナンゴ	-		X			C
トトニカパンの陶芸	トトニカパン	トトニカパン	X				B
トトニカパン伝統舞踊祭	トトニカパン	トトニカパン	X				B
エスキプラス祭	トトニカパン	トトニカパン	X				B
サンミゲール天使祭	トトニカパン	トトニカパン	X				B
トトニカパンの集落景観	トトニカパン	トトニカパン	X				C
トトニカパン市場	トトニカパン	トトニカパン	X				D
サンクリストバル教会	トトニカパン	サンクリストバルトトニカパン	X				C
サンクリストバル祭	トトニカパン	サンクリストバルトトニカパン	X				C
サンクリストバル市場	トトニカパン	サンクリストバルトトニカパン	X				C
サンフランシスコエルアルト市場	トトニカパン	サンフランシスコエルアルト	X				A
サンフランシスコエルアルト集落景観	トトニカパン	サンフランシスコエルアルト	X				B
悪魔の踊り	トトニカパン	モモステナンゴ	X				B
モモステナンゴ市場	トトニカパン	モモステナンゴ	X				B
オクタバデサンティアゴ	トトニカパン	モモステナンゴ	X				B
モモステナンゴの集落景観	トトニカパン	モモステナンゴ	X				B
モモステナンゴの毛織物	トトニカパン	モモステナンゴ	X				B
モモステナンゴの温泉群	トトニカパン	モモステナンゴ			X		C
ボログアの祭	トトニカパン	ボログア	X				D
ボログアの市場	トトニカパン	ボログア	X				D
サンバルトロの市場	トトニカパン	サンバルトロ	X				D

出典： JCA 調査団

## 3.3.2. 持続的成長のための配慮

持続的成長を維持するために必要とされる配慮項目のうち、西南高原優先観光開発地域の開発計画策定にあたって特に重要なものは、以下のとおりである。

図表 3.30 持続的成長のための主要配慮項目

自然環境	社会環境	人文観光資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絶滅危惧種の十分な保護</li> <li>・ 自然保護地域における違法な狩猟の規制</li> <li>・ 施設インフラのデザインと周辺自然環境との調和への配慮</li> <li>・ アクセス道路や探勝路建設に際しての自然環境への十分な配慮</li> <li>・ 施設やインフラの植栽に固有種の採用</li> <li>・ 観光地でのゴミ処理の強化</li> <li>・ 民間保護区、自治体保護区設立の支援と奨励</li> <li>・ 環境意識向上キャンペーンの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光商品として提示されるものを選択する際の、地域住民の意志の尊重</li> <li>・ 観光客誘客のための先住民文化の安易な誇張や変更の禁止</li> <li>・ 観光客に対する先住民集落でのマナーや作法に関する広報活動の実施</li> <li>・ バイリンガル教育、伝統芸能・工芸の振興等、伝統文化活性化のための支援</li> <li>・ 集落や地域住民による企業の設立支援</li> <li>・ 「協働管理」による周辺地域住民の観光開発への参加</li> <li>・ 観光と観光客に対する理解を深めるための教育と広報活動</li> <li>・ 観光に関する職業訓練と就業機会の提供</li> <li>・ 周辺地域住民への段階的な権限の委譲</li> <li>・ 観光宣伝の際の農閑期と農繁期に関する配慮</li> <li>・ 集落観光導入の際の住民意志の尊重と参加型計画手法の採用</li> <li>・ 集落観光運営ための集落レベルの組織設立とそれによる複数の施設・サービス間の整合性確保</li> <li>・ 集落観光導入時の来訪者に対する「振舞い規準」の設定と広報活動</li> <li>・ 集落観光導入時のゾーニングの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の建物だけでなく、町並等一定の範囲の保全努力</li> <li>・ 新規建造物に対する、伝統建築に配慮した「建築デザイン基準」の導入</li> <li>・ 探勝路の整備とそれに関する情報提供の強化</li> <li>・ 伝統的建造物の「賢明利用」の促進</li> <li>・ 観光地の魅力の一部を構成する地域住民の生活の尊重</li> <li>・ 伝統的建造物に対する、安全性や快適性を向上させるための最低限の改築の許容</li> <li>・ 伝統的建造物内装に関するオリジナル意匠の尊重</li> <li>・ 酸性雨や大気汚染からの保護</li> <li>・ 文化遺産に対する意識向上キャンペーンの実施</li> <li>・ 地域住民の意識向上のための歴史建造物への案内板の設置</li> </ul>

出典： JCA 調査団

### 3.3.3. 観光開発戦略

#### (1) 西南高原地域観光のSWOT分析

図表 3.31 西南高原地域観光のSWOT分析

	正	負
現況	<p><b>強み(Strength)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特徴のある伝統文化を保持する先住民集落が多数存在する。</li> <li>コロニアル都市、火山、雲霧林、温泉等の多様な観光魅力が存在する。</li> <li>この地域で生産される民芸品、特に織物は多様かつ高品質である。</li> <li>他国の類似観光地に比べて、先住民が観光客に友好的である。</li> </ul>	<p><b>弱み(Weakness)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光交通ネットワークの袋小路的な場所に位置し、周遊観光ルートに組み込みにくい。</li> <li>伝統的な建築意匠を尊重しない建築物が増え、伝統的町並や歴史景観の消失しつつある。</li> <li>観光産業と先住民集落との経済的結びつきが弱いため、先住民文化の観光的価値が地域住民に十分に理解されていない。</li> <li>先住民集落で特に著しいが、標識や案内板等、来訪者のための情報が十分に整備されていない。</li> <li>世界的にも知名度の高い民芸品の観光利用が、その生産地では十分に進んでいない。</li> <li>近隣で類似した観光魅力を持つバナハチェル地域との商品差別化が容易ではない。</li> <li>伝統的建造物の「賢明利用」を促進するための法的枠組みが十分に整備されていない。</li> </ul>
将来	<p><b>機会(Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的には、グアテマラ高原とメキシコの子アバス高原を繋ぎ、ムンドマヤ周遊路を形成する役割が期待される。</li> <li>ウェウエテナンゴとコパンを結ぶ国道7号線の改良によって、観光周遊ルートに組み込まれやすくなる。</li> <li>先住民社会の観光による俗化が比較的進んでいないため、オルターナティブ観光等の新しい観光商品の導入に適している。</li> <li>観光利用に適したコロニアル建築や伝統建築が多数存在する。</li> <li>民芸品の製作現場の見学やショッピングは魅力のある観光商品になりうる。</li> <li>現在地元の住民中心に利用されている温泉には、観光利用の可能性もある。</li> </ul>	<p><b>脅威(Threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化のグローバル化の進展によって、先住民文化が消失してしまう恐れがある。</li> <li>賢明利用が十分に進まないと、維持費の高い伝統的建築物が観光的に魅力のない一般建築物に建て替えられてしまう恐れがある。</li> <li>現在の無秩序な都市化を放置すると、観光開発の可能性を損ねるだけでなく、住民の住環境までも悪化させる恐れがある。</li> </ul>

出典： JICA 調査団

## (2) 開発基本方針

SWOT分析の結果が示すように、西南高原地域は様々な観光の可能性を持つが、「目玉」となる観光商品が存在せず、観光開発の焦点が定まっていない。これは多様化が必要とされる他の優先開発地域と対照的な状況である。

以下の5項目を西南高原地域の開発基本方針とした。

- 観光を通じた先住民文化の活性化
- 歴史都市の観光利用
- グアテマラ北西部やメキシコ・チアパス州の観光地の連携の強化
- 温泉の観光利用の推進
- 自然観光地での来訪者施設の整備

### a. 観光を通じた先住民文化の活性化

西南高原地域は先住民文化が色濃く残るグアテマラ有数の地域だが、近隣にパナハチエル・チチカステナンゴという先住民文化を目玉とする類似観光地が存在するため、相互交流に重点を置くオルターナティブ観光への取り組みによって観光商品の差別化を図る。また観光を利用した地場産品の宣伝と販売、観光をきっかけとした集落アイデンティティーの確立等、総合的な開発アプローチを行なう。

### b. ケツアルテナンゴ市等の歴史都市の観光利用

ケツアルテナンゴ市の中心部はコロニアル時代の面影を色濃く残し、それ自体が重要な観光資源であると同時に、周辺の先住民集落探勝の宿泊拠点としても重要である。そのため歴史都市の整備は、西南高原地域全体の観光振興に即効を及ぼすことが期待される。

### c. グアテマラ北西部やメキシコ・チアパス州の観光地との連携の強化

西南高原地域は現況では観光交通ネットワークの袋小路に位置しているが、将来的にはメキシコ・チアパス州や、グアテマラ北部のウェウエテナンゴやキチエ県を經由して、ベラパス地域との連携を深めることによって、観光周遊ルート上の観光拠点として発展することが期待される。

### d. 温泉の観光利用の推進

火山帯に位置する西南高原地域には温泉が多数分布しているため、補完的な観光商品として整備を進める。日本の温泉地で普及しているパイプによる引湯システムの導入によって、複数の観光事業者と地域住民が温泉を共有できるように図る。

### e. 自然観光地での来訪者施設の整備

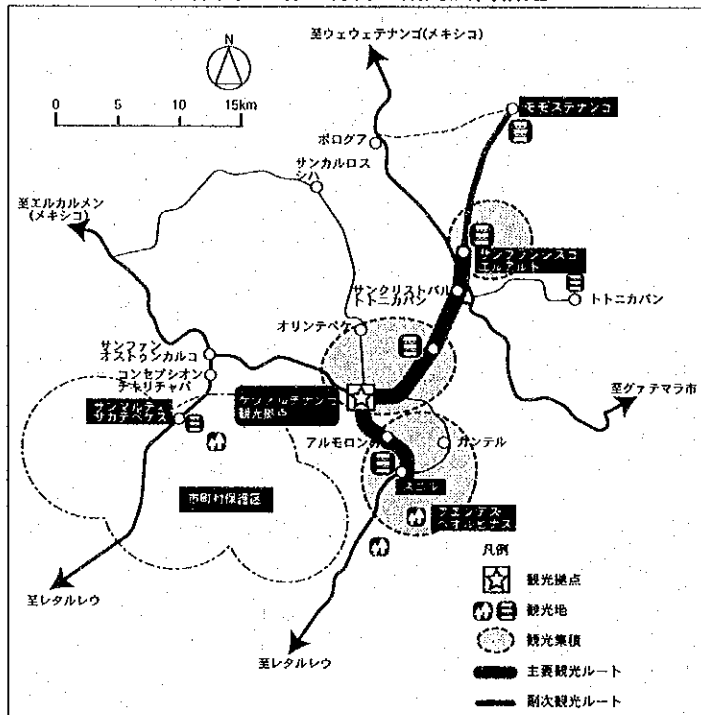
サンタマリア火山やチカバル湖、その周辺地域に残された雲霧林は、西南高原地域の既存の観光商品で、来訪者施設の整備が必要とされている。



(3) 開発シナリオと観光空間構造

図表 3.32は西南高原地域の既存の観光空間構造を示したものである。観光客の入込みはケツアルテナンゴに集中し、サン・フランシスコ・エル・アルトの野外定期市、スニルの温泉等、一部の先住民集落の日帰り観光に限られている。

図表 3.32 西南高原地域の現況の観光空間構造



出典： JICA 調査団

西南高原地域の開発シナリオは以下の方針にもとづいて設定した。

- 観光の目玉を作り出すことが最優先課題であり、先住民文化の観光利用に重点を置く。
- 先住民文化以外の文化観光関連の開発もできるだけ早い時期に実施する。
- 自然観光の開発は長期計画段階で実施する。

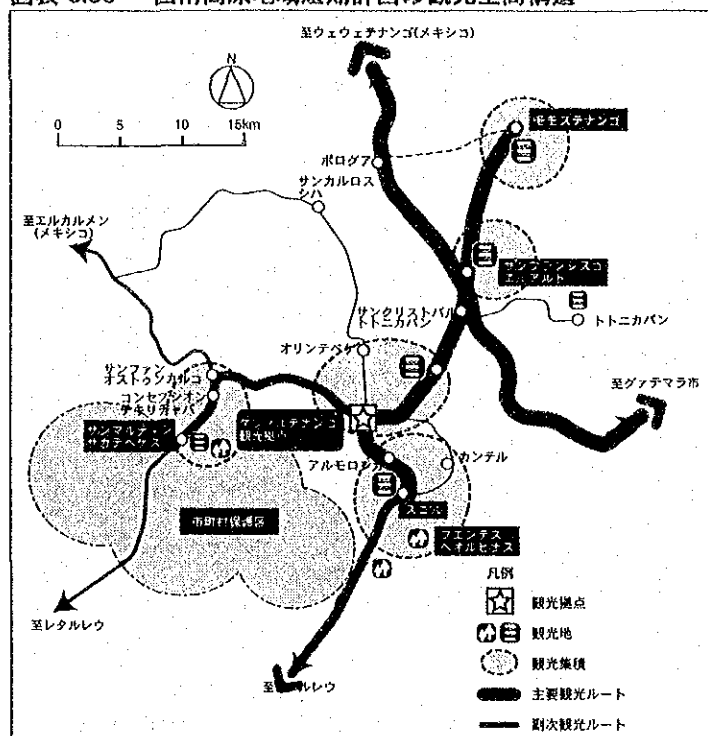
a. 短期計画

短期計画段階では文化観光の開発と振興に重点を置き、具体的には以下の整備を行なう。

- 温泉の観光利用を含むモモステナngo集落観光の整備
- ケツアルテナンゴ市の旅行環境整備を含む文化観光関連施設の整備
- ウェウエテナンゴーコパン観光回廊との連携の強化

以上を踏まえて、図表 3.33に示すように西南高原地域の観光空間構造を設定した。

図表 3.33 西南高原地域短期計画の観光空間構造



出典： JICA 調査団

上記観光空間構造の要点は以下のとおりである。

- ウェウエテナンゴコバン観光回廊との結びつきの強化
- ケツアルテナンゴ周辺の集落の観光利用
- 国内市場と近隣国市場を中心に太平洋岸との結びつきの強化

b. 長期計画

長期計画段階では西南高原地域南部の火山地域の観光利用に重点を移し、以下のよ  
うな整備を行なう。

- 自然観光商品の開発
- 温泉の観光利用の推進と自然観光との融合
- メキシコからの誘客、ムンドマヤ周遊のメキシコと結ぶ国際観光ルートの形成

以上を踏まえて、図表 3.34に示すように西南高原地域の長期計画段階の観光空間構  
造を設定した。



図表 3.36 西南高原地域の開発フレームワーク

		2000		2010		2020	
		入泊	来訪数	入泊	来訪数	入泊	来訪数
ホテル 来訪数	合計	773,540	383,649	1,055,019	524,884	1,631,418	818,486
	国内	475,346	316,898	618,321	412,214	962,525	641,683
	国際	298,194	66,752	436,698	112,670	668,893	176,802
	短距離市場	137,060	35,838	151,997	47,351	240,231	73,601
	中距離市場	99,307	14,499	158,604	30,400	235,164	47,511
	長距離市場	61,827	16,414	126,097	34,920	193,499	55,691
必要 客室数	合計		2,710		2,979		4,322
	高級		75		113		247
	中級		924		1,155		2,022
	低級		1,711		1,711		2,053

出典： JICA 調査団、INGUAT

### 3.3.4. 開発プロジェクト

#### (1) プロジェクト評価

既存計画、地域の観光関係者から提案されたプロジェクト、JICA 調査団提案によるプロジェクトを、他の2地域と同様の方法によって評価を行った。開発戦略との整合性の観点では、文化観光、特に先住民文化観光関連プロジェクトに高い評点をあてた。

#### (2) 短期パイロットプロジェクト

##### a. モモステナンゴ集落観光施設整備

##### プロジェクトの概要

モモステナンゴはキチエ族の町で、温泉と毛布・ポンチョの生産で知られている。キチエ族伝統文化を再活性化し、地元民と来訪者の相互交流、観光を通じた経済開発を目的とした集落観光の導入を行なうために、以下の観光施設整備を行う。

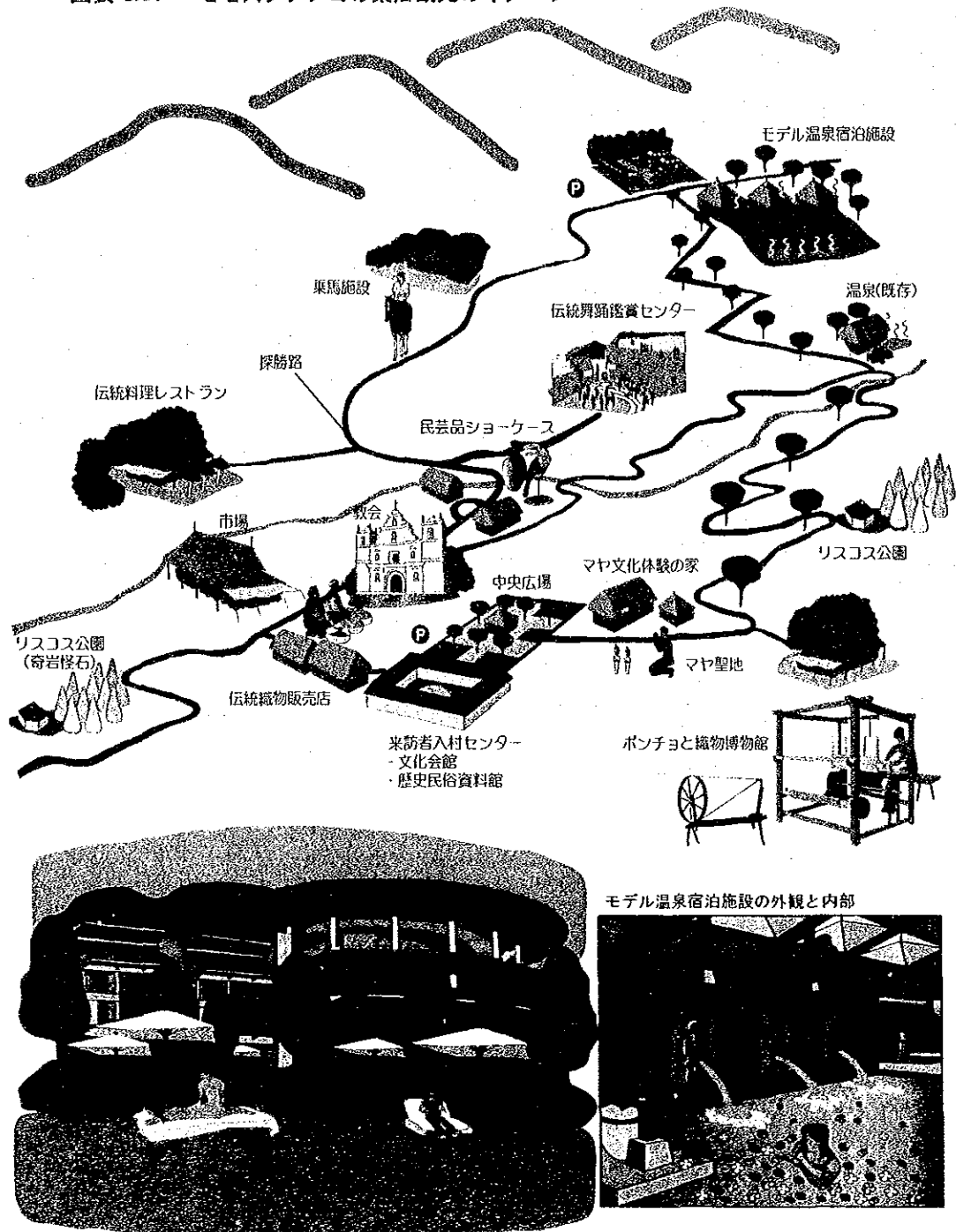
- ・ 入村センター：集落の基礎知識やマナーについての情報提供を行なう中核施設
- ・ リスコス観光公園：奇岩怪石の見られる公園
- ・ ポンチョ織物博物館：名物の毛布等地域名産の織物を展示・販売する博物館
- ・ 温泉付宿泊施設：温泉を引湯し、長期的には周辺でのホテル集積形成を目指す。
- ・ キチエ伝統舞踊パフォーマンス劇場
- ・ 民芸品ショーケース
- ・ キチエ伝統料理レストラン
- ・ 乗馬センター
- ・ マヤ文化体験の家

##### 実施・運営体制

上記の観光施設の建設は INGUAT が行い、モモステナンゴ町が運営を行なう。INFOM は INGUAT と共同で、観光施設の運営に関する技術支援を行なう。温泉宿泊施設は実績のある民間企業に運営を委託し、地元への観光技術移転を図る。

INGUAT はモモステナンゴ市長を委員長とする集落観光実行委員会を組織し、上記の省庁と企業、地域で社会開発に取り組む NGO（インテルピーダ）、地元の観光関連企業等が定期的に会合を開き、個々の観光施設間の調整を行ないつつプロジェクトを実施する。また上記の関係者を中心に地域観光委員会を設立し、INGUAT からの技術支援と市場側からのフィードバックが得られるようにする。

図表 3.37 モモステナンゴの集落観光のイメージ



出典： JICA 調査団

**(3) その他短期プロジェクト****a. ケツアルテナンゴ観光改善**

アンティグアと並ぶコロニアル都市ケツアルテナンゴ市内の観光アメニティーを以下のような整備によって改善し、観光拠点としての機能を強化する。

- 中央広場の再活性化：歴史建造物の美化と修復文化イベントの開催
- 中央広場から市営オペラハウスまでの歩行者専用道路化
- 情報提供機能の強化：観光情報、博物館、標識、ガイドブック
- 展望台の整備
- 賢明利用推進のための民間投資誘致

**b. サンマルティン・サカテペケス観光開発**

自然観光地チカバル湖の観光施設の改良、観光情報センター建設、サンマルティン集落内の観光整備を行なう。

**c. コミュニティー博物館の建設**

地域の文化や特定のテーマに特化した以下のコミュニティー博物館の建設または改良を行なう。

- グアテマラ伝統玩具博物館：ケツアルテナンゴ市
- 民芸品と紋章博物館：サルカハ
- コミュニティー博物館の改修：トトニカパン

**(4) 長期プロジェクト****a. 火山トレッキング施設の整備**

火山とその周辺に残る雲霧林の観光利用を進めるため、鳥類観察舎の建設、登山路の改良、展望台、休憩小屋、道標の設置等の施設整備を行う。

**b. 温泉観光施設の改良**

温泉施設の改良を行なう。モモステナンゴの温泉宿泊施設を模範に、より多様で高品質な温泉施設が建設されるように図る。

**c. 集落観光の改良（継続）**

長期計画段階においても施設、サービスの改良を続ける。

**(5) 建設費**

西南高原優先開発地域における短期パイロットプロジェクトの総建設費は 410 万米ドルである。建設費の明細は図表 3.38に示すとおりである。パイロットプロジェクト以外の短期プロジェクトの総建設費は 1320 万米ドルある。

図表 3.38 西南高原優先観光開発地域の短期パイロットプロジェクト建設費

整理番号	プロジェクトとコンポーネント	費用 (1000米ドル)	備考
	西南高原優先観光開発地域総計	4,115	
QSP-01a	入村センター開発		
	a. センター施設	80	既存の文化会館の回収
	b. 基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	c. 機材	8	建物用
	建設費小計	93	
QSP-01b	集落観光衛星観光施設 1: リスコス公園		
	1) 公園A		町中心部に近いもの
	a. 修景と駐車場整備	400	
	b. ライトアップ用照明	100	
	c. 休憩小屋	10	木造平屋建て、洗面所
	d. 基礎施設	10	浄化槽、水道管敷設
	e. 標識と案内板	5	
	2) 公園B		町の外にあるもの
	a. 修景と駐車場整備	200	
	b. 展望台	13	木造平屋建て、洗面所
	c. 基礎施設	10	浄化槽、水道管敷設
	d. 標識と案内板	5	
	建設費小計	753	
QSP-01c	集落観光衛星観光施設 2: ボンチョ織物博物館		
	展示学習施設	240	鉄筋コンクリート2階建て
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	機材	24	建物用
	修景と駐車場整備	12	建物と駐車場周辺
	建設費小計	280	
QSP-01d	集落観光衛星観光施設 3: 温泉給湯施設 (宿泊施設付属)		
	展示学習施設	270	コンクリート平屋建て、浴場
	温泉給湯システム	50	浴場用
	修景と駐車場整備	60	建物と駐車場周辺
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	機材	27	建物用
	建設費小計	412	
QSP-01e	集落観光衛星観光施設 4: 伝統舞踊鑑賞センター		
	劇場	160	木造平屋建て
	洗面所	6	
	基礎施設	10	浄化槽、水道管敷設
	修景と駐車場整備	52	建物と駐車場周辺
	劇場用機材	32	
	建設費小計	260	
QSP-01f	集落観光衛星観光施設 5: 民芸品ショーケース		
	工房と売店	125	木造平屋建て
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	修景と駐車場整備	30	建物と駐車場周辺
	機材	13	建物用
	建設費小計	173	
QSP-01g	集落観光衛星観光施設 6: 伝統料理レストラン		
	レストラン建物	75	木造平屋建て
	修景と駐車場整備	14	建物と駐車場周辺
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	機材	8	建物用
	建設費小計	102	
QSP-01h	集落観光衛星観光施設 7: 乗馬施設		
	厩舎	20	木造平屋建て
	洗面所	6	
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	修景と駐車場整備	20	建物と駐車場周辺
	機材	10	建物用
	乗馬用探勝路	30	
	建設費小計	91	
QSP-01i	集落観光衛星観光施設 8: マヤ文化体験の家		
	本館建物	50	木造平屋建て
	祭礼場	40	
	祭壇	10	
	基礎施設	5	浄化槽、水道管敷設
	修景と駐車場整備	28	建物と駐車場周辺
	機材	10	建物用
	標識と案内板	7	
	建設費小計	150	
QSP-01j	集落観光衛星観光施設 9: 宿泊施設建設		
	中級	1,200	
	低級	600	
	建設費小計	1,800	

注: a) 税金は含まれていない。

b) 物価上昇、インフレ、予備費、エンジニアリング費用、許認可費用は考慮されていない。

出典: JCA 調査団